	科目				i	担当者(O	主担当)	
=	キャリアデザイ	ン1	〇新汽	聿裕(1:	年生担任)			
授業方法	講義・実習開講	<b>请時期</b> 1年通年	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	さらに、人によって 必要がある。この持	に意欲的に取り組むた は、1 年生後期から 受業では、自己分析や に自分の将来の生きた	就職活動が 対業界分析、	始まるた インター	め、1 年生 ンシップ(	の前期のう の準備や事	ちに、進路をあ	ある程度定めておく
到達目標	・1 年生の前期のう ・履歴書を作成する	目分の強みや弱みを失 ちに卒業後の進路に ることができる。 ・林産業関連企業の名	ついて具体			つことがで	きる。	
授業内容	企業説明会に参加す 2年生の企業研修発 【実習の内容】 1.自己分析【4月日行われる企業説明 2.企業説明会1【4 3.就活スケジュー て学ぶ。履歴書の記 4.企業説明会2【5 5.企業説明会3【6 6.インターンシッカ	D準備をする(4月2: する(4月23日、5月 表会を聴講する(9) 23日】:シートを使じ 引会の概要について記 1月23日】:岐阜県内 ルの把握と履歴書の、 1月28日】:コンソー 16月25日】:岐阜県内 プの準備【7月16日 プの準備【7月16日 の聴講【9月10日】	到 28 日、6 月 月 11 日)。 ハ 12 日)。 ハ 12 日)。 ハ 13 日)。 ハ 14 日)。 ハ 15 日)。 ハ 16 日)。 ハ 17 日)。 ハ 17 日)。 ハ 17 日)。 ハ 17 日)。 ハ 18 日 日)。 ハ 18 日 日)。 ル 18 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	25日)。  -の特性の   の 大	り把握、ど りがおずれである。 おいないでは、というでは、かった。 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	内容を知る ュールを把 り、仕事内 仕事内容を こアポリト	。 記握し、企業選び 容を知る。 知る。 る前に、企業の いことを伝える	がのポイントについ 業務内容を調査し、 。
テキスト・参考書	特になし							
事前履修科目	特になし							
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成 20%		4. 取組 30%		5. その他() 0%	
関連する資格	特になし							
注意事項	・段階的にインター	−ンシップの準備を追	<b>≜めるため、</b>	休んだ場	合は必ず	担当に連絡	をとり、遅れを	「取り戻すこと。
学生への メッセージ	インターンシップ うにがんばりましょ	プの準備を段階的に追 ⊧ う。	<b>生める授業で</b>	゙す。して	かりと準	備して不安	なくインターン	ノシップに望めるよ

	科	目				i	担当者(O	主担当)	
	森づくりの	の基礎		〇横井	持秀一				
授業方法	講義	開講時期	1 年通年	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	針葉樹人工林 の作業の積み 本科目は、	施業の技術( 重ねて構築で スギ・ヒノ <i>=</i>	本系と、それを構 されているという キを主とする針類	構成する個 うことの理 き樹人工林	別技術を 解も重要 施業につ	E知ること Eである。 Dいて、そ	は極めて重れを構成す	i要である。ま <i>f</i> 「る作業を理論的	ある。したがって、た、森林施業が各種 内背景とともに知る う位置づけにもなっ
到達目標	・各作業を実	伐・間伐・ホ 施するときの	说明できる。 支打ちの目的とた D注意点を、理由 対幹距比を計算で	とともに		きる。			
授業内容	2. 主要持 3. 地様 4. 植栽り切切に 6. つ除木木のの 7. 除木木のののの 10. も間代の 11. 枝打ち 12. 枝打ち	対極に ない という はない はい はい かいいい かいいい かいい と 方方の のい は と まま に 発 は いいい は に は まま は は いい かい 類 除 長 森 間 は まま は は まま は は まま は は まま かい まかい 類 除 長 森 間 に まま かい せい きょう は いい せい まま かい せい は いい は いい は いい は いい は いい は いい は い	的:主体とはというでは、とびられば、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、これが、というでは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これは、これ	値の法と方る学肥密間伐、 対し、法切ぶ大度伐作技り、成の方業打 ででする。 をり。 はの方業打 を関法のち	分が、作が、のないでは、ないでは、ののでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、いいでは、い	は林適地を 方法を学ぶ。 を学ぶ。 成を実のの たい特徴を で学ぶ。	知る。適地 。 も し 方 を 学 、 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	適木の概念を覚	
テキスト・参考書	参考書:「造林	林学(川嶋書	店版)」「造林学	(朝倉書店	≣版)」「i	新たな森林	林管理」な	ど	
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 30%		2. 試験 70%	3. 成 9 0%	<b>果物</b>	4. 取組 0%		5. その他() 0%	
関連する資格	特になし								
注意事項	・現地見学時	 のドレスコ-	- ド:5 見学(山	林)					
学生への メッセージ			なる科目です。「· な現場に対応する						するのか」をしっか らい。

	科目					:	担当者(O	主担当)	
	森づくり写	主習		〇伊佐	E治彰祥				
	74 - V ) )			横	サ秀一/	/池戸秀陶	隆/杉本和 t	也/津田格/	玉木一郎/新津裕
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	45	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	的に合わせて育 れる人工林施業 この科目では	て、計画的 であると表 、その人コ 解を深める	的に収穫し、その すえる。 二林施業における 5。また、一連の	後も持続	的に資源 保育まで	を確保す	るため確実 基本的な技	な更新を図る 5術を現場実習	るのではなく、利用目 ることが、今後求めら 習により学び、人工林 とともに山林作業の作
到達目標	・必要な道具・	資材を選択	k伐など施業目的 R・準備できる。 うことができる。	]を理解し <sup>-</sup>	ている。				
授業内容	2. 植栽: 苗木 による 1. 植栽 掘りい 1. 植栽 切の支 (ダム) 4. 枝打の枝打 5. 枝材の枝打 5. 枝材のありまで 4. は 4. は 4	- 林×6 枝 り とめち皆ちづの 授業の へ な齢を林手り障 内 で	施する。  オを整理・集積し  、所定の密度で  、雑木等の下刈  より行う。(枝き)	、植栽に 植栽する。 Iりを下刈 打ち高2m 使用し行	適した環 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	境を整え 払い機に 丁ち 高 2 r 、 歩 道整	る。 より行う。 n以上) 備を行う。		
テキスト・参考書	随時プリント配	!布							
事前履修科目	森づくりの基礎	1							
評価方法	1. 出席 70%		2. 試験 0%	3. 成果 0%	具物	4. 取組 20%		5. その他 10%	(技能習得状況)
関連する資格	特になし								
注意事項	・実習にあたっ	ては、指定	等の事情により とされた実習服ト E判定をされた者	シスコー	ドを遵守	すること	0		
学生への メッセージ			★施業を理解する 素調管理を学んで		く、季節	、天候、	フィールト	、作業内容に	に応じた服装や装備の

	科	<b>B</b>					担当者(O	主担当)	
	林木育種	• 育苗		〇玉木	一郎				
授業方法	講義・実習	開講時期	1年通年	時間数	60	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	どのように生 現在行われて 植林で実際に 授業を通して	産されている いる事例にて 使用する。 、長期的な初	のかを知ってお いて学ぶ。また た、岐阜県の白	さくことは 二、苗畑で 日鳥林木育 その林木育	重要であ 育苗一年 種事業地 種の考え	る。本科 ≅間の作業 むを見学し よ方と最新	目では、 を体験する 、岐阜県の fの林木育種	林木育種の基礎 る。作った苗は O取り組みにつ	は性質を持っていて、 や遺伝育種の理論、 「森づくり実習」の いて学ぶ。これらの することに加え、山
到達目標	・コンテナ苗 ・我が国の林	のつくり方々 木育種の考え	)作業を知ってい 管理方法を知っ 上方を知っている。 まを知っている。	ている。					
授業内容	基草夏ま 【1.2.3.4.からりみた。 実味播草堆で白どコ広苗林のりと、 野味がは、 でいた、 では、 でいた。 では、 では、 でいた。 では、 でいた。 では、 でいた。 では、 でいた。 では、 でいた。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる	演天時りも 】 床・苗草。種るちょで英習時間がし 「床・苗草。種るちょで:有樹林は外あく 「春や中と」事。づく必苗選の知でるは、「ギ苗で」地、「:に関抜いない。」が、「おい畑生」の「ス演応す種類が、「おい畑生」の「ス演応す種類が、「おい畑生」の「ス演応す種類が、「おい畑生」の「ス演応す種類が、「おい畑生」の「ス演応す種類が、「おい畑生」の「ス演応す種類が、「おい畑生」の「ス演応す種類が、「おい畑生」の「ス演応す種類が、「おい畑生」の「ス演応す種類が、「おい畑生」の「ス演応す種類が、「おい畑生」の「ス演応す種類が、「おい畑生」の「おりままた」の「おい畑生」の「おいまたままままままままままままままままままままままままままままままままままま	で、指示した日に 後に交代で水や 畑でヒノキや前行を かではなり落ちました。 見学・ヒで採取のした。 では、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	に受しり ギ処。を 上 生コいのはの必を の理同使 市 をナの違い 中間ずし 生苗につ の 用ラ補い 日本の出て 世界が出て 世界の地出て 世界の地出で 世界の地出で 世界の地出で はない はいました はいかいしょう	時でも ・へ長肥 林 コベ、苗にさら 挿ののを 木 ンマ寒に、参。 し播様で 育 テキ冷必	かつける ・かった ・かった ・かった ・かった ・かった ・かった ・かった ・かった ・かった ・ボール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	と。 替えを を を を が は に で の に で の に で の に で の に で の に で の に で の に で の に 。 に る に 。 に る に 。 に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る 。 に る に る に る 。 に る に る に る に る に る に る に る 。 に 。 に 。 に 。 に る に る に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に	。 察する。	
テキスト・参考書		遺伝育種学	」(文永堂出版)						
事前履修科目	特になし		0 =450	^ <del>_</del>	1 44	A T=-/-	1 1/27 表h	F 7 A M 1	
評価方法	1. 出席 80%		2. 試験 0%	3. 成集 0%	÷物	4. 取組 20%		5. その他() 0%	
関連する資格	特になし								
注意事項			き以外不要であ ても良い格好を			るために	帽子を持参	きする。	
学生への メッセージ			■業です。草とり 『、がんばって耶	-		り、大変に	ニ感じるか ₹	もしれませんが	、手を加えれば加え

	科	目				1	担当者(O	主担当)	
	安全管理の	の推進		〇杉本	和也				
授業方法	講義	開講時期	1 年通年	時間数	15	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	発生する原因	について理解 て自分で考え	解し、適切な対策	きを立てら	れること	き目的と	する。安全	管理の意識を	と、また労働災害が 高めるためには、ま ョンを行い、安全に
到達目標	・災害の原因 ・リスクアセ	分析が出来る スメントが出							
授業内容	因について大 2. 労働災害の 労働災害の原 3. リスクアセ 災害を防ぐた 理解を深める 4. 失敗を伝え 災害の発生を	災害の現状やまかに掴む。 )原因分析の分析 とないまする。 に編り返さない。 に繰り返さない。	や労働災害事例 所の方法を学び、 アセスメントにつ	事故が起 Dいて学び の原因を <b>i</b>	きた原医 、実際 <i>の</i>	けっいて みまましま ひまま ひまま ひまま ひまま ひまま ひまま ひまま しょう ひまま しょう はい しょう	自ら考えるスクアセス	、メントを通し	概況や災害の発生要 て、安全についての ることが重要である。
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 60%		2. 試験 0%	3. 成身 0%	<b>!</b> 物	4. 取組 40%		5. その他() 0%	)
関連する資格	特になし								
注意事項	特になし								
学生への メッセージ	もっとも労	働災害の頻原	度が高い林業。事	₿故の事例	やリスク	アセスメ	ントから安	全について考	えます。

	——————————————————————————————————————				担当者(O	主担当)	
	15 1 54 11 2		〇杉本和台	<u>b</u>			
	伐木造材実習		非常	助講師/池戸	秀隆/伊佐氵	台彰祥	
授業方法	講義・実習 開講時期	1年通年	時間数	5 区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	木材の伐採には、チェ- ナンス方法を習得し、木 <sup>2</sup> の扱い方、安全な伐採方 方を体得する。	材の伐採に必要な	スキルを身に	つける。演習	7林を中心に	立木の伐採を	行い、チェーンソー
到達目標	・安全器具の使い方を知・チルホールを用いて伐 ・伐倒手順、受け口、追し ・造材、枝払いにおけるジ	到することが出ま ハロの作成方法を 主意点を理解し、	₹理解し、安全				
授業内容	【実習の進め方】 各自 1 4~5 人のチームを存実施する。  【実習の内容】 1. チェーンサイトで、	構成してチルホース・ 、動コ は	ール等の架設を (4コマ) 8日) -ンス技術を できる。 パでするできる。 なてができる。	· 行い伐倒する そし、安全に 。 ができる。	伐倒作業が	できる技術を	イスやナタ研ぎ等を 身につける。
テキスト・参考書	特になし						
事前履修科目	特になし	0 =1=0	0 5-4		1 \\mathred{m} \disp\dots		
評価方法	1. 出席 60%	2. 試験 0%	3. 成果物	4. 取組40%		5. その他() 0%	
関連する資格	特になし						
注意事項	・ドレスコード:2実習	(伐採)。					
学生への メッセージ	確実に木を倒せる技術	を身につけよう!					

	科目				担	旦当者(Oi	主担当)	
	1 14 14 66 1 77		〇吉野	安里				
	木造建築入門		小	原勝彦/	′辻充孝/	松井匠		
授業方法	講義・実習 開講時期	1年通年	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	林業の大きな目的とし 利用する。木材の主用途 とでもある。日本には木 この授業では、木造建	は木造建築である 造建築の歴史があ	る。したが <sup>、</sup> 5り、日本の	って、木 <del>)</del> の文化の-	造建築を領 一翼を担っ	知ることは っている。		
到達目標	・軸組み工法の部材の名 ・軸組み工法の部材の代 ・部材がどのように機能 ・建築物の設計意図につ	表的な寸法を知っ しているかを説明	っている。 目できる。					
授業内容	1. 木造建築のモジュー、・身の回りの寸法、。 2. 軸組み工法部材・名類を作りながら、・模型をの世界の形式の世界の形式のである。 3. 木構造のようながら、・木造建築の成造建築の大造建築の木造建築の木造建築の木造建築の木造建築の株造は土土を、中国の一般では、東務者による受験、表別では、東務者によるで、東務者によるで、東務者によるで、東務者によるで、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、東京、	建築の寸法、建築 寸法を知る。 、理解を知る。 はさいように機能 成り立ちを学ぶ。 用総合演習」発表	<b>としている</b> な <b>を</b> <b>を</b> <b>を</b> <b>を</b> <b>を</b> <b>を</b> <b>を</b> <b>を</b>	か? する。	井匠)によ	よる実習を	含む。	
テキスト・参考書	特になし							
事前履修科目	特になし							
評価方法	1. 出席 40%	2. 試験 0%	3. 成果 20%	!物	4. 取組金40%	姿勢	5. その他( 0%	)
関連する資格	特になし							
注意事項	特になし							
学生への メッセージ	林業の大きな目的とし の使われ方を知ることで							

	科	<b>B</b>				ŧ	担当者(O	主担当)	
	大型特殊免	許講習		〇池戸	秀隆				
授業方法	実習	開講時期	1年通年	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	En 共通
背景と目的	砂を運んだり	する。これら	の特殊な車両を	公道で運	転するた	- めに必要	になるのか	、大型特殊自	で不整地運搬車で土 動車免許(大型特殊 取得することを目的
到達目標	・大型特殊車	両の運転操作	Fを理解し安全に	作業でき	る。				
授業内容	教習所に入機制 関係すると免 【実技講習】 1. 教習所への 2. 実技講の習: 計6時間の車 3. 検定試験:	自が教習所で し、 程度で、替えの ) 入校型転手 で、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	ぶ。 了後、別日に卒	時間の実 検定試験 なるので 検査 (片目 おいて、1 業検定試験	がある。 手続きす 10.3以 回当たい <b>向</b> が実施	「ること。 上、両目( リ1~2時 される。	). 7 以上); 間を目安(	など に指導教官が教	習車両に同乗し、合を担当教員に提出す
テキスト・参考書			ストを購入する。						
事前履修科目	普通自動車免			^ <del>-</del>	3 # <i>h</i>	4 E-45	次赤	<b>こっか</b> ル /:	<b>5. まっ</b> 取り
評価方法	1. 出席 0%		2. 試験 0%	3. 成身 0%	き物	4. 取組 0%	<b>安</b> 野	5. その他(1	光計の取得)
関連する資格	大型特殊免許								
注意事項	・詳細は掲示	板で連絡する	、負担とする。 る。 計し、免許証の写	しを提出	すれば単	ⅰ位を認定	する。		
学生への メッセージ	ていると短期		<b>構できますので、</b>						、この免許を所有し

	科目				į	担当者(O	主担当)	
			〇玉木	一郎				
	情報処理		柳	沢直/辻	充孝			
授業方法	講義・実習 開講時期	1年前期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	アカデミーの授業では ある。また、就職後は、 情報処理室に設置してあ のソフトウェアなどの基	業務でビジネスメ る共用の Windows	ィールを含め パソコンを	かてパソ: E用いて、	コンを使 メールヤ	う機会はよ	:り多くなる。	そこで本科目では、
到達目標	・ビジネスメールをやり ・Word や Excel 、PowerPo ・デジカメを使って写真	oint, Photoshop	を使ってレ	·ポート作			プレゼンするこ	ことができる。
授業内容	【実習の進め方】 情報処理室にある共有パ 毎回、授業の最後に課題 【実習の内容】 1. 電子メールの利用とマ 2. MS Word の使い方: Wo 3. MS Excel の使い方: E 4. MS PowerPoint の使いする方法を学ぶ。 5. デジカメの使い方: ラ 6. Adobe Photoshop の使いアウトや書体の使い方の。 8. 最終課題の制作: 1~1 【実務者による授業内容」この授業は、建築デザイ	ををメールで提出 アナー: ビジネス rd を使って文ま xcel を使った表 方: PowerPoint を ボジカメの設定の い方: Photoshop い方: Photoshop のはどを学ぶ。 7 で学んだ手法を	はする。 メール成の する。 書る 表 を作作の でで 大 で で で た で た り で り 、 で り 、 の の の の の で り 、 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	き か い い い の の の の の の の の の の の の の	条書き、ラ レゼ パー部 使 パー がって いっぱい かんしゅう しゅう はんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう しゅう しゅう かんしゅう しゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅう しゅうしゅう しゅう	インデン =成などにつ 料を作る力 いへの画像の り出したり ポスターを	ト、書式の設定 ついて学ぶ。 万法と、作成し の取り込み方法 、色調を調整す	などについて学ぶ。 た資料を使って発表 などを学ぶ。 「る方法などを学ぶ。
テキスト・参考書	特になし							
事前履修科目	特になし							
評価方法	1. 出席 60%	2. 試験 0%	3. 成果 20%	物	4. 取組 20%		5. その他() 0%	
関連する資格	特になし							
注意事項	・ガイダンスの際にログ	インアカウントと	:メールアカ	コウントる	を教えて	もらうため	、それらを持ち	参する。 
学生への メッセージ	得意・不得意のある科 た、使ったことがある人							

	科 目				į.	旦当者(O	主担当)	
	野外宿泊実習		〇新津	=====================================	<b>手生担任</b> )			
授業方法	実習開講時期	1年前期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	野外での実習では、おが生じることがある。うある。また、山歩きになまンジニア科全員での山ことを目的とする。具体に	まくコミュニケ- れていないと実習 林でのグループ?	ーションを 習地にたど 亍動を通し	とるため り着くま て、コミ	には、普 でに体力 ュニケー	段からお互 を消耗して ション能力	いのことを良いしまう。この! しまう。この! を高め、さら!	く知っておく必要が 野外宿泊実習では、 こ体力づくりを行う
到達目標	・学生同士で協力して物: ・演習林のランドマーク! ・天候にかかわらず、半	にはどんなものか	<b>ぶあり、そ</b>		にあるのフ	かを知って	いる。	
授業内容	【実習の進め方】 春期(4月上旬~5月上往春期は学内や学校の近辺 【実習の内容】 1. 春の野外宿泊実習 演習林を歩きながらしなさ 2. 夏期の野外宿泊実習 中津川市の神宮美林や素 験する。	、夏期は岐阜県P んなランドマーク がら進めていく。	で実施す	る。 か、場所	ら特徴を:	知る。炊事		
テキスト・参考書	特になし							
事前履修科目	特になし							
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成身 0%	<b>旱物</b>	4. 取組 50%	姿勢	5. その他() 0%	
関連する資格	特になし							
注意事項	・雨具、山歩きできる服: ・食費、宿泊費が発生す		<u> </u>	 を用意す	<u></u>			
学生への メッセージ	積極的に行動し、交流	- を深めて下さい。	野外活動(	に慣れて	いる人は、	慣れている	- ない人のサポー	・トをお願いします。

	科目				打	旦当者(O	主担当)	
	インターンシッフ		〇新津	聲裕(1年	生担任)			
授業方法	実習 開講時	1 年前期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	関心のある職種の仕けを行う契機とする。 週間程度の職業体験を取り方や、段取りを決	学校が提示するイン 行う。インターン <b>シ</b>	/ターンシ /ップ先と	ップ先から の連絡は、	ら、自分な	が進みたい	分野や興味のあ	る組織を選択し、1
到達目標	・自分の行きたい企業 ・自分の行きたい企業 ・履歴書を書くことが	の仕事内容について						
授業内容	【実習の進め方】 事前相談(5月末まで) インターまで)、(10月5 報告書の提出(10月5 【実習前相談【5月末まで) 1.事予望先の内容】 2.予希では、【5月【6月月3.希行方の高、依明月30の文書のの文書のの文書のの文書のの文書ので、11業報ののの、11業報のでは、研修の表表のでは、11ののでは、11ののでは、11のでは、	決定(7月13日まで ナンシップの実施 日まで) で】:自分の行準表 中旬】:ウラックでがたたけで 中末までででででででででででででででででででででででででででででででででででで	で)、 の の の に 。 に 。 。 に 。 。 に 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	ー 245528こ 24るを選(にたるもまるこ 35もまるもまるこ 4はまるこ 5もまるもまるこ 5もまるもまるこ 5もまるもまるこ 6もまるもまるこ 7もまるもまるこ 7もまるもまるこ 7もまるもまるこ 7もまるもまるこ 7もまるもまるこ 8もまるもまるこ 8もまるもまるこ 9もまるもまるこ 9もまるもまる	プB にる希組である。 はる希組である。 は、望織あるか、に作業 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	連絡 (7月) は と は と は と は と は と は と は と は と は と は	3 20 日まで)、事 (10 月 5 日まで 相談する。 し内諾をとる)。 情報と学生プロコ 報に記録する。	3務局への届け出(8)、作業日報・作業
テキスト・参考書	特になし							
事前履修科目	キャリアデザイン1							
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成果 20%	!物	4. 取組	姿勢	5. その他 () 0%	
関連する資格	特になし							
注意事項	・必ずインターンシッ ・インターン先までの				ると良い)	)。		
学生への メッセージ	インターンシップ先 を心がけて下さい。イ ことを感謝しつつ研修	ンターンシップ先の	D組織は、					

	科	<b>B</b>				:	担当者(O	主担当)	
	樹木の形態	と生理		〇玉オ	マー郎				
授業方法	講義	開講時期	1 年前期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	形態や生理を 本科目では のように生育 の上で光合成	理解しておく 、樹木の体の しているのか の仕組み、村	くことは必須であ D仕組みと働きを いを理解すること	る。 E知ること を目的と 低温のス	に加え、 する。本 トレスへ	樹木とは 科目では	どのような 、まず植物	生物で、どん 『の体の構造に	ていく上で、樹木のな環境のなかで、どいて理解する。その発芽生理、有性・
到達目標	・樹木の水利 ・樹木のさま	用や光合成に ざまな繁殖プ	¶用語を知ってい こついて知ってい 対法について知っ いる生理的性質に	いる。 っている。	っている	) o			
授業内容	ているかを理 2. 植物の生活で学ぶ。植物の生活で学ぶ。では物 3. 環境と植物におけるとができません。おけるとができません。 5. 植物ホルモ 6. 植物の野の合性、花粉の質のできません。	解する。  「おと体の性性を関する。」  「おいまない。」  「はいまない。」  「おいまない。」  「おいまない。」  「はいまない。」  「はいまないまない。」  「はいまないまないまない。」  「はいまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまない	造:草本と木本の と生活環について 境に及ぼす効果、 ごについて学ぶ。 カニズム、異な 植物ホルモンの	の違いを理 で学ぶ。 大気 環境に を を は を 数 豊 凶 い た を り で し 、 大 の り で り で り い り り り り り り り り り り り り り り	別解する。 コニ酸化 にはる。 はないでは、 はないではないではないではないではないではないではないではないではないではないで	植物の体 炭素濃度と 合成効率の 無性生殖の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	の構造にこれ 植物、炭素 D違い、情報	Dいて、各部位 長固定と森林の 暇としての光の	類の位置づけになっの名称と機能につい物質生産、低温環境の利用について学ぶ。
テキスト・参考書 事前履修科目	参考書:「植物	用語辞典」	(八坂書房)、「植	植物生態学 ————	」(朝倉	書店)なる	<u> </u>		
評価方法	1. 出席		2. 試験 40%	3. 成5 0%	 <b>≹物</b>	4. 取組		5. その他 () 0%	
関連する資格	特になし ・エンジニア <sup>2</sup>	科1年生、ク	7 リエーター科 1	年生林業	専攻、森	林環境教	育専攻との	合同授業。	
学生への メッセージ	おぼえるこ 楽しんで取り			銭を持って	野外に生	三育する樹	木を見たと	きに、学びが	活きてきますので、

	科 目				担当者(O	主担当)	
	森の生態		〇柳沢直				
	林の生態		津田村	各/玉木一郎			
授業方法	講義・実習 開講時期	1 年前期	時間数 3	0 区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	林業経営、森林管理は 位置づけ等は重要であり 境の関係、植生の遷移や	し、これらの基本的	知識と調査法	を習得するこ	とを目的と	する。、特に樹	木の生長と諸々の環
到達目標	・森林管理のために必要 ・基本的な植生調査法、 ・調査結果の解釈ができ	特に毎木調査がて	きる技術をみ	につける。	· る。		
授業内容	【実習の進め方】 講義と野外調査、データ 基本的に半日を単位とし 【実習の内容】 1. 樹木の生長: 光合成 2. 植生調査:コドラー 3. 調査データの解析: 4. 地形と植生の関係:はいての基本的パターンの	、て授業を行う。 なと物質生産・相対 ト法による毎末調 樹種別優占度表の 也質と地形に関する	が成長・光環境 査・植生断面図 作成・更新状況	図・樹幹投影! 兄の理解・林兒	図の作成・; 冠ギャップ(	の有無について	
テキスト・参考書	特になし						
事前履修科目	特になし						
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 50%	3. 成果物 0%	4. 取組 0%		5. その他() 0%	
関連する資格	特になし						
注意事項	特になし						
学生への メッセージ	自然を読み解く目は問 が必要です。	- 時間をかけないと著	をえません。授	業を受けたあ	さも、自分	- けなりの視点で	自然を見続けること

	科 目				į	旦当者(O	主担当)	
	森の立地		〇伊佐	治彰祥				
	林切立地		非	常勤講師	万/柳沢直	[/玉木一]	R	
授業方法	講義・実習 開講時期	1年前期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	樹木の成長は森林の立ち この科目では、森林の どのように変わってくる。 うに森林施業に応用してい	立地はどのような か、また、森林コ	い因子にた 上壌生成の基			_		
到達目標	・森林の立地を左右する[・適地適木を理解してい・土壌生成のメカニズム・代表的な森林土壌の種達・品種選定の必要性を理	る。 を理解している。 類、判別方法を知						
授業内容	1. 森林の立地 概論: ・森林の立地を大、高の立地を方、流動を対している。 一次の一点を対している。 一次の立地では、一次の立は、一次の立地では、一次の立地では、一次の立は、一次の立は、一次の立は、一次の立は、一次の立は、一次の立は、一次の立は、一次の立は、一次の立は、一次の立は、一次の立は、一次の立は、一次の立は、一次のでは、一次では、一次の	適木を学ぶ。 植生分布を知り、 シンカニズ。知り、 る類をで変変を はまり、 で変変をできる。 ※較でことを学れます。 ※取でことを学れます。 ※取でことを学れます。 ※取びことを学れます。 ※取びことを学れます。 ※現でことを学れます。 ※現できる。 ※現できる。	その背景、	関連性学	を学ぶ。			
テキスト・参考書	随時プリント配布							
事前履修科目	森づくりの基礎							
評価方法	1. 出席 70%	2. 試験 0%	3. 成果 20%	物	4. 取組	姿勢	5. その他 () 0%	
関連する資格	特になし							
注意事項	・授業は、1.0日×4回で ・天候、見学先等の都合 ・屋外実習においては蜂	により、日程、内				ピペンを持	参すること。	
学生への メッセージ	森林の立地は、樹木の 一部の因子を除いて、立 この科目を通じ、適地	地条件を人為的に	こ変えること	は難し	ر۱ <sub>°</sub>	場所から自	一つので移動する。	ことはできないし、

	科	<b>1</b>					担当者(O	主担当)	
				〇津田	 3格				
	樹木の同	司定		柯	沢直/ヨ	木一郎。	/松井勅尚		
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	60	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	きた。現在利 別する能力は 組みを理解す	用されている 必要不可欠で るための基础 は、植物をst	る樹種は限定され であろう。また F 楚ともなる。	しているが 日本の樹木	、今後新 の基本的	たに森林 な樹種を	の樹木の利 識別する能	用を考えて行  力を身につけ	で人々に利用されてく際には、樹木を識ることは、自然の仕きる能力を習得する
到達目標	・身近な樹種・知らない樹	の分類群を排 種について、	などから、少なく 型握している。 図鑑などを用い k材から同定する	て調べ、	同定する				
授業内容	下記の項目に 開催順序はフ 【授業の内容 1. 樹木の材特 技術を学ぶ。 2. 樹木同定の 3. 樹木同定実 4. 押し葉標本 5. 樹木同定ま 「実務者によ	イールドには イールで、 イールで、 イールで、 イン・ イン・ イン・ イン・ イン・ イン・ イン・ イン・ イン・ イン・	: 葉や枝、樹皮( 生育している樹) 木同定の能力を 最終日に、実物(	施する可能 養物 特徴 観 を を を を を を を を を を を を を を を を を を	性がある。造物は、動物をは、動物をは、動物をは、は、は、動物をは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	いについて 別定する <i>が</i> 別定のポー 文葉標本で に同定試験	ためのキー/ イントや生態 を作成する。 倹を行う。	こついて学ぶ。 態的特徴、利用	て、樹種を同定する B方法について学ぶ。
テキスト・参考書		物スキャンで	で見分ける 1100 和	種類(山と	:渓谷社)				
事前履修科目	特になし		0 = 1:50	0 -	9 4L	4 == 4=	1.77 ±h	F 7 - M 1	
評価方法	1. 出席		2. 試験 50%	3. 成身 0%	と 物	4. 取組20%		5. その他()	)
関連する資格	特になし								
注意事項			こめの B4 版のスタ しておくこと。	ケッチブッ	ックが 3 冊	程度必要	要。		
学生への メッセージ	森林には様認識する第一		<u></u> 字在し、人々はそ	れらをう	<u></u> まく利用	してきま	<del>_</del> した。樹木	の名前を知る	ことは、その価値を

	科	■		担当者(〇主担当)							
				〇伊佐	上 注治彰祥						
	林業の遺	<b>三</b> 具		村	/本和也/	/久津輪邪	<b></b>				
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	45	区分	必須	カテゴリ	En 共通		
背景と目的	道具の選択と この科目で た選び方、正	その使用方法 は、林業の現 しい使用法、	去の適否によって 見場で使用される	大きく左 様々な道 法等を学	右される 具のうち ぶ。併せ	。 主に個人 て、 <b>ヘ</b> ル	装備する道	具について、	仕事の出来栄えは、 種類や用途に合わせ 護パンツ等の安全装		
到達目標	・ 基本装備を ・ 基本装備を	適切に安全 適切にメン 種類と必要		きる。 とができる	<b>;</b> .	帯: ナタ、	カマ、ノコ	等 安全装備	情: ヘルメット、チェ		
授業内容	の現内容を実のよう。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	象関す の具ト、ルー種作具具政を る資準は 内具ト、ルー種作具具政を 資料し場 容基防ノハのと方メメと作 業に 大基用、ンン取し 内内 大学	習を行う。授業はある。	を備がいた。 は備がいた。 がののは、はいいでは、はいいでは、は、はいいでは、は、はいいでは、は、はいいでは、は、はいいでは、は、は、は、	< 6 回 性、識 理 い 具の び方策 仕、 構造	たまする。 大きのでをを整 大学必をを整備 がまる。性が、等	フィールド 法を学ぶ。 を学ぶ。 。	の状況、天候	イールドとし、実際等の事情により、実		
テキスト・参考書	随時プリント	配布									
事前履修科目	特になし										
評価方法	1. 出席 70%		2. 試験 0%	3. 成身 0%	<b>!</b> 物	4. 取組 20%		5. その他(i 10%	技能習得状況)		
関連する資格	特になし										
注意事項	・実習にあたっては、指定された実習服ドレスコードを遵守すること。 ・屋外実習においては蜂アレルギー検査で陽性判定をされた者は、エピペンを持参すること。 ナタ、ノコ、砥石等の基本装備は、各自購入が必要。										
学生への メッセージ	l		1等の基本装備を まについても学べ			なれること	とはもちろん	 ん、様々な作	業時に必要な装備を、		

	 科 E	1		担当者(〇主担当)						
		A 44- 1 14		〇伊佐	E治彰祥					
刈払機 	の操作(安:	全衛生教	(育)	杉	/本和也/	/池戸秀阪	<b>隆/新津裕</b>			
授業方法	実習	開講時期	1年前期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通	
背景と目的	する動力機械で 衛生教育の実施 この科目では	ご、適切に使 をが義務付け は、刈払機に	更用をしないと重 けられている。	大事故を 機取扱い作	引き起こ	すことも	あり、「労働	助安全衛生法」	利な刃が高速で回転 において定める安全 くカリキュラムに則	
到達目標	・刈払機を適ち ・刈払機の点板 ・刈払機に関す	刀に操作し、 食、基本的な ける労働安全	F、使用上の注意 刈払い作業が行 よメンテナンスか 全衛生上の法令を 耐生に関する事項	うえる。 べできる。 E理解して	いる。	る。				
授業内容	授業は、1.0日をは、1.0日をは、1.0日では、1.0日	作業・4 全 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	施する(講義 1 が定められており を法、実は 意識知知知 がに関する知識を がに関する。 での別は操する。 での別は機刃交換 での業である。	日、また、また、また。	習る日満たない。	)。「刈払 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	機取扱い作: 了証が交付	業に対する安全	とした実習を行う。 全衛生教育実施要領」 も取得できないので	
テキスト・参考書		機作業のポイ	イント」林業・オ	村製造業:	労働災害	防止協会	発行 ※自	費購入		
事前履修科目	特になし 1. 出席		2. 試験	3. 成果	2物	4. 取組	<b>姿</b> 勢	5 <b>ራ</b> ወሐ (1		
評価方法	80%		0%	0%		4. AX NE		10%		
関連する資格			対する安全衛生教		J					
注意事項	・実習にあたっ	っては、実習	:する(一括購 <i>入</i> 習服ドレスコート 生判定をされた者	〝を遵守す	-	参するこ	٤.			
学生への メッセージ			−と並び、林業 <i>0</i> 自分だけでなく						じ、必要な知識と技	

	 科 [	<b></b>					担当者(O	主担当)	
				〇池戸	秀隆				
チェーン	ノーの操作基	基礎(特別	引教育)	村	<b>彡本和也</b> 。	/伊佐治章	钐祥/新津裕	Ŷ	
授業方法	講義・実習	開講時期	1年前期	時間数	60	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	つける。	引教育規程に	に基づく「伐木等						しい操作方法を身に 作技術、メンテナン
到達目標	・チェーンソー ・振動障害の!!	ーの取扱い、 原因、症状、	に関する合図、追 点検・整理、ン 予防措置、労働 平切り、受け口を	ノーチェー 加安全衛生	ンの目立 法令を知	ての方法  っている	を知ってい		
授業内容	用いて演習林が 【学科講等な 1. 伐木防護 3. 大下肢をましている 3. 振り 4. 関係法 3. 大手大動院法 3. 大手大動院法 3. 大手大力 3. 大手大力 3. 大手大力 3. 大手大力 4. 大手大力 4. 大手大力 5. 大手大力 5. 大力 5.	く、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	識 : 伐倒の方法 D使用方法 知識: チェーン 方法関する知識:: 生法、同法施行 方法操作: チェー び整備: チェー	、人人倒のを ソーの種類 振動規則に の処作 の操ンソーの点	合図、退 原因及び でおける たなが を たなななない。 たななない。 たなない。 たなない。 たなない。 たなない。 たなない。 たなない。 たなない。 たなない。 たなない。 たなない。 たなない。 たなない。 たなない。 たなない。 たななない。 たななない。 たななない。 たななない。 たななない。 たななない。 たななない。 たななない。 たなななない。 たなななない。 たなななない。 たななななない。 たななななななななない。 たなななななななななな	避の方法 及び取扱い び症状、抗 関係条項 の方法、「	、かかり木のたま、チュート肢を防護す	の種類及びその ニーンソーの点 ら防措置と健康 よる防護衣等の	使用方法
テキスト・参考書	伐木造材作業者なお、詳細は持			そ全ナビ(	林業・木	材製造業	労働災害防	止協会 発行)	自己負担で購入。
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 20%		2. 試験 50%	3. 成 0%	<b>上物</b>	4. 取組 30%		5. その他() 0%	
関連する資格	労働安全衛生規	規則第36第	条第8号及び第8	号の2の	特別教育	修了証			
注意事項	・全課程出席		正を交付する。 : No. 2 実習(伐持	采)					
学生への メッセージ	特別教育修	了証の資格が	が取得できます。						

	科	目					担当者(O	主担当)	
	木材の基礎	楚知識		〇吉野	<b>安里</b>				
授業方法	講義	開講時期	1年前期	時間数	15	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	います。きの	こ栽培にも依 とは何か?オ	使っています。 ト材の生物学的な						燃料などに利用して
到達目標		的な性質を記 の原因や対第							
授業内容	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	物か と材材材 本的分 率 化化 因学を 木 化 的な 体性質 いい な性質 いて 質 質 質 質 質 質 質 質 質 質 質 質 質 質 質 質 質 質	するが。						
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし		0 = 1 = 0	0 "-	3.46	/-	\A ±+	F	
評価方法	1. 出席 40%		2. 試験 0%	3. 成男 40%		4. 取組 20%		5. その他( 0%	.)
関連する資格 注意事項	特になし 特になし								
学生への メッセージ			表をもとに、光台 こる、切る、使う						デー利用といってもよ 。。

	科目			担当者(〇主担当)						
7	木材関連産業を	知る	〇吉雪	野安里						
授業方法	講義・実習開	講時期 1年前期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通		
背景と目的	の利潤が山側へ還 市場から仕入れ 林産業です。	元されて林業といえ た丸太を製材し、目 どのように売られ、	ます。 的に応じて加	エし、作	寸加価値が	ついて、住	E宅などに使わ	丸太を売り上げ、そ れます。この仕事が それを意識した仕事		
到達目標	・丸太から、製材 ・素材価格、製材	システム販売につい 、製品についての流 品価格の推移につい ちがいを知る(原材	れを知る。 て知る。			品の仕向け	-先)。			
授業内容	・見かのメの励のようのがある。 見用 と が	おわりに、月当番が 指示するテーマでレ ム販売について、 を知る。 を知品製知る。 ちがいを知る を知る。	、筆記具、で お礼の言葉を ポートを書き の仕組みを知	きればう 述べる。 、提出する。	デジタルカー見学先へに	メラ。 は礼をつく 業の出席と	する。			
テキスト・参考書	特になし									
事前履修科目	特になし									
評価方法	1. 出席 40%	2. 試験 0%	3. 成 <sup>1</sup> 40%		4. 取組 20%		5. その他() 0%			
関連する資格	特になし									
注意事項	・2回欠席すると	極的な質問をしてく 単位がとれません。 や交通事情により、								
学生への メッセージ	森林に関わる生	業には、幅広い視点	—— 、知識、好奇	 心が役に	 こ立ちます。	 。この授業	・で、視野を広と	 めてください。		

	科目					:	担当者(O	主担当)	
	木造建築の	現場		〇辻弁	<b>孝</b>				
授業方法	講義・実習	開講時期	1年前期	時間数	15	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	体で感じること 合いの変化や新 間を感じる。	:ができる。 fしい材との	これが木造建築	きを学ぶ上) 持つ良さ	で原点と やサポー	なる重要 -トしなけ	な体験であ ればいけな	る。経年変化	空間の広がりなどを による自然素材の風 験し、木造建築の空
到達目標	・木造建築で使 ・木造建築空間		けに関心が高まる うる。						
授業内容	光や風の変化な 2. 自力建設の 間の比較 3. 空間を可視の	: どを感じる 建築体験: / 化: 自力建 スの実施: <sup>1</sup>	小規模なヒュー <sup>・</sup> 設の図面化、実 学外の木造建築 <sup>特</sup>	マンスケー 際に体験し 物の空間体	・ルの建築 た空間で 験、簡単	を体験、外 を可視可	部とのつた	ながりの体験、	とのない空間も体験、 設計意図と実際の空 年変化をじっくりと
テキスト・参考書	随時、プリント	·配布							
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 60%		2. 試験 0%	3. 成界 0%	!物	4. 取組 40%		5. その他() 0%	)
関連する資格	二級建築士、木	造建築士							
注意事項	・作業する日は	- 作業着で来	きること。						
学生への メッセージ			)風合いや居住性 をの説明ができる				しましょう	o	

	科	<b>I</b>		担当者(〇主担当)						
森	林環境教育	基礎演習		〇嵯峨	創平					
授業方法	講義・実習	開講時期	1 年前期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通	
背景と目的	て森林環境教	育の理念、SI		の国連サ	ミットで	採択され	た 17 項目の	の持続可能な開	育的アプローチとし 発目標 Sustainable る。	
到達目標	•森林環境教 •森林環境教	育の題材の選 育プログラ <i>L</i>	OGs との関係を理 び方や展開方法 への企画と運営力 チームワークで	法の基礎	を習得す	·ð。				
授業内容	るをを使って保証のでは、	の(教) 育育育ロロロ: る後ワ育		主理解 と り い 分 分 環 とし い か な 環 まと か 森 て て 教 めの	自る SDG ョ 林 プ プ 育 のら発 らい 環 ロ ロ プ 講 ロ ロ プ 講 グ グ ロ 義	運を関を育ムムラで一條際活画施をよんに用をに実	るとす 体で考向際になった はる ままる しる また やにて ないが はんしん ない はんしん ない かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんし	よる第一歩とし <sup>-</sup> メージをつかも を探す   	ショップで多用されて、身近な森の素材	
テキスト・参考書		育をはじめよ	う」全森連、「	センス・オ	·ブ・フ:	ナレスト」	高知県森	林局、ほか		
事前履修科目	特になし 1. 出席		 2. 試験	3. 成果	 具物	4. 取組	 姿勢	5. その他()		
評価方法 	50%		0%	20%		30%		0%		
関連する資格 注意事項	特になし									
学生への メッセージ	森林環境教	育は子ども遠	にも大人気の活	- <b>動です</b> 。 <sup>·</sup>	ぜひ基礎	を身につ	けて現場で	も役立ててくた	<b>ざさい!</b>	

	科 目				担当者(〇)	 主担当)	
			〇新津裕				
キャンプカウ	フンセラー実習 1(基礎	編•夏)		,,			
			萩原裕 ————	作		•	
授業方法	実習開講時期	1年前期	時間数 75	区分	選択	カテゴリ	En 共通
背景と目的	森林空間は木材生産の場としキャンプ)の現場で、子どもか外にも、自己を再発見し、お至	ちと向き合う	カウンセラ-	-として活動			
到達目標	・森林空間が持つ「子どもたち・子どもたちと向き合う事の多・活動現場を支えるための企図・現場で必要な自然の知識や野	€しさ、難しさ 回・準備を体験	を体感し、E 食することで、	自分なりの感 自分で考え	覚を身につ		9
授業内容	【実習の進め方】 夏のキャンプ本番は、7月20日 【実習の内容】 1. 準備 子供向けキャンプについてのも 準備とともに事前研修としても 2. 実践 本番がではいる。 ・などもとのでがからと携 ・などもとつ同てのも ・スとももでもまでのも ・ストラーをできまでのできまでのできまでのできまでのできまでででいる。 ・海林空間の利活のできました。 ・森林空間の利活のの学では、からなりを通りである。 ・森林空間の利力によるが、またのできまない。 ・森林空間の利力によるが、またいでは、またいのできます。 ・森林空間の利力によるが、またいでは、またいのできます。 「実際者によるが、またいである。」 ・森林では、またいでは、ま	基本的な考えた 全習する。(放記 な項目に触れな と を活かすには な な な な で が な で が く く く く く く く く く く く く く く く く く く	5や、子どもが 課後) ながら体験学習 は	さちとの接し	方、自分た		
テキスト・参考書	特になし						
事前履修科目	特になし						
評価方法	1. 出席 2. 損 50% 0	式 <b>験</b> %	3. 成果物 0%	4. 取組 50%		5. その他() 0%	)
関連する資格	特になし						
注意事項	・キャンプの本番までの準備期 ・直前に宿泊型の研修を行うこ ・本番期間中は、子どもと一線	ともあります	- 0		後に集まる	ことがありま	<del>र</del> 。
学生への メッセージ	参加者としてではなく、子とい奥深さがこの実習にはありま		いる側として。	どんな場づく	りが必要な	のか。当日参	加だけでは味わえな

	 科 E	1				1	担当者(O	主担当)	
				〇津田	 ]格				
文章・	プレゼンテ	ーション	技術	村	『沢直/3	E木一郎			
授業方法	実習	開講時期	1 年後期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	告書としてまる ンという形で 本科目では記	とめる機会も 目手に伝える 倫理的に物事	生じるだろう。 ことが要求され	その際に いることに E学び、文	は、論理 なる。	!的に筋道	立てて話を	まとめ、文章や	ない。レポートや報 5プレゼンテーショ 「く伝える技術とは
到達目標	・簡単なレポー ・相手に伝わる	-ト・報告書 る発表スライ 吏ったプレゼ	かりやすい文章 を作ることがて ドを作ることか ンテーションを 指摘できる。	<b>ごきる。</b> 「できる。		る。			
授業内容	下記の項目にで基本的に授業が 【授業の内容】 1. 発表という 2. 論理的思考 かりやすい文章 3. レポート・ 行い、手法を習	- 情報の - 情報の - 情報の - 大きの - 大きの	D目的、発表の 事実と意見、 い文章を理解す た方:レポート 話の流れとスキ	施する。 - るが、時 形態、発表 - る ・ 報告 - も - も - も - も - で の 様	表の倫理、 考、日本 形式、 様 成、見べ	発表の心 注語の文章	う得を知る。 配作法、正確 で、図表・	<b>筆な文章、誤解を</b> 写真の挿入、執	さする。 を与えない文章、わ 最告書の作成練習を イドの作成練習を行
テキスト・参考書	「わかりやすし		〜・卒論を書く: 」「100 ページの		に」「わ	かりやす	い説明の技	術」	
事前履修科目	特になし		) = h = A	0 "-	3 44-	4 /-	\Ar ±+	F 454 0	
評価方法	1. 出席 40%	2	2. 試験 0%	3. 成男 30%		4. 取組 30%		5. その他() 0%	
関連する資格	特になし								
注意事項	特になし								
学生への メッセージ			ーンシップなと ん。積極的に授						<sup>ができなければその</sup>

	科 目			=	担当者(O	主担当)					
			〇萩原裕作								
コミ	ュニケーションワー	·ク	非常勤調	<b>寿</b> 師							
授業方法	講義・実習 開講時期	1 年後期	時間数 15	区分	必須	カテゴリ	En 共通				
背景と目的	日々の暮らしはもちろんい事実です。何かを提案し相手の気持ちを「聴く」が ルプレイの中で、主体となるの言葉に対する反応に気	ったり、つくった 」と、自分の気持 なったり、観察す	こり、一緒に活動 持ちを「聴いて」	- したり、は 表現するナ	たまた様々 」」が必要で	なトラブルをラ テす。1対1や、	克服していくには、 グループでのロー				
到達目標	・相手のことを「聴く」感覚を身につける。 ・自分の気持ちをしっかりと捉え表現することができる。 ・自分の会話の癖を知る。 ・コミュニケーションを円滑にするための方法や考え方を知る。(障害となるものが何かを知る)										
授業内容	【実習の進め方】 1 泊 2 日のの進め方 3 イルで 3 に実習の内容 3 ・・ ココー 3 で 4 に 3 に 4 ・・ カー 3 に 4 に 4 に 4 に 4 に 4 に 5 に 5 に 5 に 5 に 5	ティング(今の気 ティング(今の気 ティンミング・コーク を ラーク ニワーク を で まって で まって で まって かい は で がい 自 が で で で まって で まって かい は で で で まって	- ションとの共通 - ションとの共通 - 実施 - 全球 - で 深 め る。 - き で 。 - き で 。	常勤講師と	環境教育の						
テキスト・参考書	「のびやかに自分になる」	①~③ (トエッ	ック文庫)								
事前履修科目	特になし 	2. 試験		4. 取組	次埶	5. その他()					
評価方法	50%	2. 試験 0%	3. 成条物	4. 與和 50%		5. その他()					
関連する資格	特になし										
注意事項	・1 泊2日の合宿スタイル ・自炊のための食材費、宿			円)等実費	がかかりま	す。					
学生への メッセージ	仲間と一緒に楽しみなた ば日々のコミュニケーショ						でもこれを体験すれ				

	科目					担当者(O	主担当)					
Ā	な林政策・森林計画	Ī	〇池戸	秀隆								
授業方法	講義・実習 開講時期	1年後期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通				
背景と目的	歴史を追いながら、森 に関係する法規や制度を							。また、森林・林業				
到達目標	<ul><li>・歴史を溯り、その時代の課題とそれに応じ施行された森林政策について知る。</li><li>・現代の森林計画制度、保安林制度、林地開発制度などについて知る。</li><li>・森林の多目的機能を理解できる。</li><li>・現場で機能区分のゾーニングができる。</li></ul>											
授業内容	【実習の進め方】 ワークショップが、調査を紹めますで行い、調査を経りますででいる歴史の内容を画した。 2. 森林計制度 1. 在最初的一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个	果を整理して班ご と制度:森林林株 な林計度:森林林 を制度:極いのない。 を利度に公園と県の組 国の組織の森林の 国の組 がけし、その機能を かられた様式のパ	基経治自織的に至り、発生は、大学のでは、大学のいいがは、大学のいいがは、大学のいいがは、大学のいいがは、はいいいいがは、はいいいいいいいいがは、はいいいいいいいいいいいいい	する。  森林法の での計 での計 が 砂防指 が 動事業 の に でする た に な に な な に な に な な に な に な な に な な に な な な な に な	制定、改立 動 定地と砂瓜 の補助金 の現地ポ	E 方事業、森 <sup>4</sup> パントへ行 を検討する	林法と林地開発 すき、各場所の	§5				
テキスト・参考書	配布資料											
事前履修科目	特になし		_									
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成身 10%		4. 取組 20%		5. その他( <del>1</del> 20%	発表)				
関連する資格	特になし											
注意事項	特になし											
学生への メッセージ	森林施業プランナーに	必要な知識を学ぶ	ぶことがで	きます。								

	科	目				1	担当者(O	主担当)	
	林業の現	見状		〇横井	秀一				
授業方法	講義	開講時期	1年後期	時間数	15	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	林業と林産業	は木材の需要	要供給の関係で強	食く結びつ	いている	ため、双	方を関連付	けて理解する。	重要である。また、 ことが必要である。 知ることを目的とす
到達目標	・木材関連産 ・原木市場と ・木材の価格	業の種類と村 システム販引 形成の仕組 <i>み</i>	E し(森林面積・ B 互関係を説明で Eの長所・短所を →を説明できる。 )違いを説明でき	きる。 説明でき		・齢級分	布など)を	説明できる。	
授業内容	を知る。  2. 木材関連度電・熱供給な  3. 木材流通の価格などにつ	産業と木材利 どの概要と、 ウ木材価格: いて知る。 が態と森林経	用:住宅産業、。 それらにおける 原木市場、製品で	家具産業、 6木材利用 市場、直接	製材工場 を知る。 取引、シ	易、合板工 ノステム販	場、集成村	オエ場、パルプ =場、原木価格	産量、造林面積など 産業、バイオマス発 、製材品価格、製品 、林業を担う人材な
テキスト・参考書	参考書:「森林	林・林業白書	」など						
事前履修科目	特になし		0 =450	0	3 44	A TF- 45	\/r <del>*</del> ±*	F 70H ^	
評価方法	1. 出席 30%		<ol> <li>試験</li> <li>70%</li> </ol>	3. 成果 0%	や物	4. 取組 0%	妥勢	5. その他() 0%	
関連する資格注意事項	特になし								
学生への メッセージ	されているか	を知ることは		参考にも					事でこの業界が形成 ますが、それをもと

	科					:	担当者(O	主担当)	
<u>r</u>	生態系の機能	能と保全		〇柳沙	直5				
授業方法	講義・実習	開講時期	1 年後期	時間数	15	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	機能があり、 数も多いため、 森林をはじめ	我々人間はそ 、陸上の生態 とする生態系	その機能による恩 態系の中でも大き	恩恵を受け な比重を こうなもの	て生活し 占め、地 があるの	ている。 !球環境に	森林は占有 多大な影響	する空間や、- 響を及ぼしている	、生態系には多くの そこで暮らす生物の る。この授業では、 れるように保全する
到達目標	・生態系とは		る。 軍される仕組みと	こ、それを	活かした	施業につ	いて考える	0.	
授業内容	【実習の内容 1. 生態系とは 2. 生態系の機 概念を元に考 4種類の生態 そしてそれを 3. 森林の公益	室でのの講義を表す。 は一体のは、 は一体のは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	制定を行う日も記 系とは何か、さ 生態系のもつ機能 供給サービス・ 多様性について解 素供給・土壌流 際:森林の持つな	まざまな ** 能や、それ ・調整サー 解説する。 出防止・※	上態系の記述が発揮されている。 ビス・文 サ水防止を	される条件にサービなど森林生	‡、人間への 、ス・基盤+ 生態系の持	の恩恵について、 ナービスそれぞれ つ公益的機能に	、生態系サービスの れの実例について、 ついて解説する。 どを通じて森林の公
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 50%		2. 試験 50%	3. 成 0%	果物	4. 取組 0%		5. その他() 0%	
関連する資格	特になし								
学生への メッセージ									られていたものにも えると嬉しいです。

	科 [	■				;	担当者(O	主担当)	
Ā	森林植物同眾	官実習 1		〇柳沂	で で直 は は は は は は は は は は は は は は は は は は	5木一郎			
授業方法	実習	開講時期	1 年後期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	のこと、森林I 欠である。本語 材同定実習」	こ生育する机 実習では「樹 では自生地で	植物について、分 対木・木材同定実 ・見学できなかっ	↑類体系や ≧習」で学 ○たブナ・	植物地理 習した樹 ミズナラ	学的な視 木につい など温帯	!点、有用・ て復習し、 域の森林を	薬用・有毒な 同定能力を養 構成する優占	ききることはもちろん はど利用の観点が不可 きうと共に「樹木・木 種についても、県内 ることを目的とする。
到達目標	ヒメコマツない・植物の基本的	ど)は同定で 的な分類体系		-				トチノキ・カ	<b>)ツラ・サワグルミ・</b>
授業内容	2. 植物分類学3. 植物同定美	立で行う。 林にて野外到      での基礎:植いの基礎:植いないでは、中間	受習を行う。 樹木・木材同定: 物の分類体系・ 温帯域の森林での植: 域の森林での植:	植物地理学の植物同気	学的視点(i		D学習		
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし 1. 出席		つ 計除	3. 成男	目析加	4. 取組	次執	5. その他 (	.)
評価方法	70%		2. 試験 30%	3. 成身	<b>ト</b> 初	4. 取組		5. その他(	
関連する資格	特になし								
学生への メッセージ			うになると、利用 善いてください。	・管理・	保全、様	々な場面	でできるこ	とが増えては	うきます。しっかり学

	科 目				1	担当者(O	主担当)	
n <del>±</del> s	7年 白红の七色甘	r**	〇柳沥	直				
H用字	乳類・鳥類の生態基準	)	非	<b>  常勤講師</b>	Fi .			
授業方法	講義・実習 開講時期	1 年後期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	シカ・クマ・サル・イス管理が必要である。そのた野生生物として哺乳類と、業における獣害の実態や変を学ぶ。絶滅のおそれのな	さめに必要とされ 鳥類をとりあげ、 対策について解詞	る野生生物 分布や生 说する。そ	かの生態的 態・保全 れらの内	り基礎知記 等につい 容を通じ	戦や保護管 ての基本的 て野生生物	理に関する基本 な内容を取り	k的な考え方を学ぶ。 扱う。さらに、農林
到達目標	・哺乳類、鳥類の基礎的な ・基本的な種の同定能力な ・哺乳類、鳥類の獣害に、 ・哺乳類、鳥類の保全の野	- を身につける。 ついて現状と対策	きを知る。	る。				
授業内容	1. 哺乳類の生態等:哺乳 2. 農林業被害の現状及びしている哺乳類側の特徴しる。野生生物保護管理の考 4. 外来種による生物多様に及ぼす影響について学え 5. 鳥類の生態等:鳥類の 6. 鳥類の野外調査法:お 7. 絶滅のおそれのある哺あげながら学ぶ。	でである。 できる できます できます できます できます できます できます できます できます	哺乳類の特 る。 を単なる害 勿多様性の ついよる野ケ	特徴: 哺 言獣では無 危機の一	乳類によせく、保証では数え	を で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	対象として捉え	る考え方を学ぶ。 る地域固有の生態系
テキスト・参考書	参考図書は授業の中でアラ	ナウンスする。						
事前履修科目	特になし							
評価方法	1. 出席 30%	2. 試験 0%	3. 成身 70%		4. 取組 0%	姿勢	5. その他() 0%	
関連する資格	森林インストラクター							
注意事項	・野外実習では藪こぎもる	あるのでしっから	りとした服:	装で。鳥	類の図鑑	を持ってい	れば持参のこ	<b>と</b> 。
学生への メッセージ	哺乳類、鳥類の実践的が 然の見方も身につきます。		全策の裏に	は科学的	データの	裏付けがあ	らります。この	授業では科学的な自

	科	<b></b>		担当者(〇主担当)							
	測量			〇伊佐	E治彰祥						
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通		
背景と目的	この科目で( 技術を学ぶ。	は、実際の影		ことの多い	アナログ	· ひびデジ	タルコンバ	パスを使用したネ	ある。 森林測量技術、図化 こついても併せて学		
到達目標		ンパス、デシ	D方角、距離等、 ジタルコンパスを こができる。			-		きる。			
授業内容	を行う。授業に業の進捗状況には講義・実図のでは、 1 . ・ 地図のでは、 2 . ・ 磁測を 現場を 3 . ・ 、 測場を 3 . ・ 、 測量を 4 .	量 は に は いっぱい かいま と いっぱい かい いっぱい かい かい かい かい かい かい かい かい かい がい かい	4回で実施する。 7時間を延長する	。 天候、 現合あり で が な による で な による	場コンラ。	がイション・機能、使	い方を学ぶ 量を行い、	3程、内容を変す 。 測量技術を習得			
テキスト・参考書	随時プリント	配布									
事前履修科目	森づくりの基礎	楚									
評価方法	1. 出席 60%		2. 試験 10%	3. 成身 0%	<b>具物</b>	4. 取組 20%		5. その他(打 10%	技術習得状況)		
関連する資格	特になし										
注意事項			習服ドレスコート アレルギー検査で		-	— <u>—</u> :者は、エ	<u></u> ピペンを持	 参すること。			
学生への メッセージ			青報を得るうえて 削量技術をしっか		-		者の必須ス	(キルの一つ。;	この科目を通じ、森		

	科	目				=	担当者(O	主担当)	
	測樹	<u> </u>		〇津田	1格				
授業方法	講義・実習	開講時期	1 年後期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	本科目では	、林分に投え よって、樹木		を削減す	るための	正確な測	樹技術を学	≐ぶ。林分を代	表する標準地調査や な情報を求め、将来
到達目標	・測樹に用い	られる道具を	を体得している。 を適切に使うこと 解析し、評価する		-				
授業内容	下記の項目に 開催順序はフ 【授業の内容 1. 測定器具の 2. 調査プロッ 3. 林分調査: 4. データ解析	ルドにおける ついて、各区 ィールドの* 】 )使い方:輪 ・トの作成:》 プロット内 「: 測定した	の立木の胸高直?	がする。 たする可能 ルーメライ 生地を選び そ、データ	ス、バー 、プロッ 測定する から樹高	ーテック <i>フ</i> トを作成 る。プロッ 高曲線を作	する。ポケ ットレスサ: ≣成し、樹福	ットコンパス <i>の</i> ンプリングによ §曲線式を求め	。 )使い方も習得する。 ・る調査も実施する。 る。さらに、平均樹 などを評価する。
テキスト・参考書		計測学、やさ	さしい測樹の実務	3					
事前履修科目	特になし		2 計略	ე -#: =	∃ <i>-</i> h/m	Λ H¢□	次執	5 2 7 4 1	
評価方法	1. 出席 30%		2. 試験 50%	3. 成 9 0%	₹初	4. 取組 20%		5. その他() 0%	
関連する資格	特になし	Alle -L 1010 == 1	. = ^ :	*. :-:		1.63		<del></del>	
注意事項			か、長袖、長ズオ 必要に応じて連絡		ても良い	<b>いもの)、^</b>	<b>ヽ</b> ルメットラ	<b>看用のこと。</b>	
学生への メッセージ	森林に関わ れることを望		森林の情報を訪	 売み取る技	 術が役に	 立ちます	 。視野を狩	要が、積極的!	に授業に関わってく

	科目	<b>1</b>				=	担当者(O	主担当)	
	間伐の選オ	技術		〇横井	持秀一				
授業方法	講義・実習	開講時期	1 年後期	時間数	15	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	果が将来の森林	林の価値を決 計葉樹人工材	快定づけることか	ら高い技	術力を必	要とする	0		(に選木は、その結)
到達目標	・指標から間( ・林分の現況) ・目標林型に1	戈の必要性 と から到達可能 合わせた育品	♪の状態を表す指 ニ 緊急性を判定で ヒな目標林型を考 ぱ木・間伐木の選 w・材積間伐率を	きる。 えること: は木ができ	ができる る。	10			
授業内容	現地での選木の選木は2 林分に果の取りまとる【実習の内容】1. 林分状態のその結果から、2. 目標林型の3. 選木:目標	と教では、 とり と 教の との との との を との を との	する。 順査の結果から才 態(間伐の必要性 の現況などからな させるための選	まとめを、大はグルース数密度や性性を発見にある。	- プ作業 林分材積 )を評価 ・考え、   ・う。	とする。2 iなどを求 iする。 目標林型を	林分目の遺める。その	結果から、混み	とし、この作業と結合い度を計算する。
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	森づくりの基礎	楚、測量、源		0 -	3 4L	4 = 1=	\A7 #h	F 70H 0	
評価方法	1. 出席 40%		2. 試験 40%	3. 成身 0%	き物	4. 取組 20%		5. その他() 0%	
関連する資格	特になし								
注意事項	・ドレスコー	ド:1実習	(一般) 守れな	い場合は、	取り組	み姿勢を 	咸点する。 		
学生への メッセージ			て、間伐時の選木 ≃説明できること						業です。「なぜこの

	 科 [	<b>=</b>		担当者(〇主担当)								
				O+:-	- <del>1</del> п ш							
	伐木実	習		〇杉本	-							
				<b>洲</b>	戸秀隆。	/伊佐治章	/祥 					
授業方法	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	En 共通			
背景と目的	第一に伐採す	るための所作		森林文化ア	カデミー	-演習林内	で伐採を行	う。地形や集	し練習をして、安全 材方法、運材方法な			
到達目標	・安全器具の使い方を知っている。 ・チルホールを用いて伐倒することが出来る。 ・伐倒手順、受け口、追い口の作成方法を理解し、安全に作業する事が出来る。 ・造材、枝払いにおける注意点を理解し、安全に作業する事が出来る。											
授業内容	り (1) 1 2 3 4 5 6 7 8 8 8 ※ 【 ロレレ アルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルル	・ 重	ごを2年生と一緒 也の状況によって 安全対策 について、追ヅルーク では、 作と集材 はの伐採搬出作業 のり、 のでである。 でで平切、 ででで平りによって	指に学ぶ。? (は、実施) は、 (は、) は、 (は、) が、 テるい。 (で、) ナ	残 しな 学 き ン い い ぶ 。 る が で で で で で で で で で で で で で で で で で で	間は1年 <b>目があ</b> り	生のみで伐		こで林業架線の索張を行う。			
テキスト・参考書	特になし											
事前履修科目	伐木造材実習											
評価方法	1. 出席 60%		2. 試験 0%	3. 成界 0%	!物	4. 取組 40%		5. その他 () 0%	)			
関連する資格	特になし			_								
注意事項	・ドレスコー	 ド:2実習(	 (伐採)。									
学生への メッセージ	確実に木を	 到せる技術 <i>を</i>	を身につけよう!									

	科	■				;	担当者(〇	主担当)	
	 山資源の様	<i>h +</i> > ≠1 □	1	〇柳》					
里	山貝源の依	ベ 仏 利 川.		2	ス津輪雅/	′津田格∠	/伊佐治彰	祥/新津裕	
授業方法	実習	開講時期	1年後期	時間数	120	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	必須である資 のような生活 資材が普及す って、再び里	源はもちろん は、戦後しに るにつれ、急 山の資源がき	ん、建材、屋根村 ばらくして経済成 急速に失われてい	t、肥料、 t長が起こ いった。し 実習では	飼料、木 り、燃料 かし、近 、全員で	工材料な 革命、肥 年になっ 炭火を囲	だのほとん 料革命など て持続可能 しんでログへ	いどを里山の自 ごにより化石燃 記社会への転換 、ンチに腰掛け	燃料といった生活に 然から得ていた。こ 料や化学合成された が叫ばれるようにな 、里山の惠みをいた
到達目標			目山から調達する 戦を基に、これか						<b>ప</b> .
授業内容	業できる服装 【実習の内論 2. きのこののこののこののこの。 3. 里山体 広で、 3. 里山 径樹小いで、 4. 小葉樹いで、 5. 竹する。 6. 炭焼・ニュー	・中・装 ・一・装 ・一・装 ・一・装 ・一・装 ・一・装 ・一・装 ・一・装	ロすること。実習 はとはどのような はと のような と さのこ 表	『は基本ないのは、 自然いのが、 はいのが、 がいのが、 はいのが、 といっと、 といっと、 とっと、 と	に か 物を 統 い を て す 日 ぶ 、採 な エ し 焼 って に 失 で で く て かんしょう	立 の収 用 ノ 、 。 「ロ、 生穫 と キ 竹 の がべい がっかい かんしょう かんしょう	での 利用 和 大 接 和 の 持 う で り り 方 を 制 も も も も も で り り た を も も も も も も も も も も も も も	t 半日単位で行 つい伏せいて がと などの調査を がら、 がながら、	秋に見られる野生き 行う。
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 60%		2. 試験 0%	3. 成 0%		4. 取組40%		5. その他() 0%	)
関連する資格	特になし								
注意事項	特になし								
学生への メッセージ									源を使うことは、森 いけにしてください。

	科					;	担当者(O	主担当)	
	木育			〇松井	 				
授業方法	実習	開講時期	1 年後期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	ローチするか: の基礎を学ぶ	が大きな課是 ことを目的 と	風となっている。	この授業 <sup>・</sup> 森との関	では、「暮 わりを主	· い なりに考 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	計台とした えられるノ	木育」のアプロ	関心層に如何にアプーチを実践するためを学ぶ。木と人との
到達目標	・講座スタッ	フとしてつく	育」について理! 〈る技術を獲得で なや木について <i>の</i>	きる。		0			
授業内容	実践現場にり で ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	- Total Park Park Park Park Park Park Park Park		でくりを体 りを 本人	ながら学	かいて学び			育の基礎について学
テキスト・参考書		を育むはじぬ	かての木育」(黎)	明書房)					
事前履修科目	特になし 1. 出席		2. 試験	3. 成身	⊒ <i>\</i> ∱/m	4. 取組	次執	5. その他 ()	,
評価方法	1. 出席		2. 武特央 0%	3. 成身		4. 取和 0%		5. その他()	,
関連する資格	特になし								
注意事項	・作業しやす ・袖や裾の締 ・半ズボン、	まった服を着							
学生への メッセージ	道具の使い	 方以前の身体	▶の使い方から学	が直しま					

	科 目				担当者(O	主担当)	
			〇新津裕	}			
キャンプカウ	フンセラー実習	1(基礎編・冬	)	裕作			
授業方法	実習開	講時期 1年後期	時間数	45 区分	選択	カテゴリ	En 共通
背景と目的	キャンプ)の現場	生産の場としてだけで で、子どもたちと向き 発見し、お互いを認め	合うカウンセ	ラーとして活動			
到達目標	<ul><li>子どもたちと向</li><li>活動現場を支え</li></ul>	「子どもたちの成長の き合う事の楽しさ、業 るための企画・準備を 然の知識や野外技術、	ましさを体感し 全体験すること	、自分なりの感 で、自分で考え	対を身につ		0
授業内容	【実準備 2. 本・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	うということ 連携 することとは んできたことを活かす う活かせるか うこと 用と持続的な林業 て自らの学びを深めて	きえ方や、子ど (放課後) <sup>は</sup> れながら体験 「には	もたちとの接し学習してもらう	ン方、自分 <i>た</i> 。。		
テキスト・参考書	特になし						
事前履修科目	特になし						
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成果物 0%	<b>勿 4. 取</b> 約 50		5. その他() 0%	)
関連する資格	特になし						
注意事項	・直前に宿泊型の	までの準備期間では、 研修を行うこともあり 子どもと一緒に寝泊す	ります。	• =	後に集まる	ことがありま	<b>す</b> 。
学生への メッセージ		らではの楽しみがあり のか?一緒に盛り上に			・期間ですか	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	んな活動が子どもた

	科	目		担当者(〇主担当)							
不整	地運搬車運	転技能講	習	〇池戸	秀隆						
授業方法	講義・実習	開講時期	1 年後期	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	En 共通		
背景と目的			・ 上砂運搬などの作 こめの技能を習得		、「不整」	也運搬車」 地運搬車」	の運転が	必要となる。			
到達目標	・不整地運搬	車の運転操作	<b>ドを理解し安全</b> に	た作業でき	る。						
授業内容		自が教習所で 講習はアカラ	で申し込み手続き デミーで行い、 2 がある。		技講習は	教習所で	行う。				
テキスト・参考書	教習所で指示	されたテキス	ストを購入する。								
事前履修科目	大型特殊免許										
評価方法	1. 出席 0%		2. 試験 0%	3. 成集 100%		4. 取組 0%		5. その他() 0%			
関連する資格	不整地運搬車	運転技能講習	習修了証								
注意事項			(負担とする。詳 ド当該授業以外で				— <u>—</u> 修了証の写	 しを提示すれ!	<b>ば単位認定する</b> 。		
学生への メッセージ		専用道、森林証が取得でき	林作業道などの道 きます。	うづくりで:	土木工事	をする場	合にお勧め	の資格です。			
				F020							

	科					1	担当者(O	主担当)	
車両列	系建設機械過	重転技能	講習	〇池戸	秀隆				
授業方法	講義・実習	開講時期	1年後期	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	En 共通
背景と目的	となる。		・ 重機による掘削、 こめの技能を習得		搬、整地	さなどの作	業があって	「車輌系建設	機械」の運転が必要
到達目標	・車両系建設	機械の運転技	操作を理解 し安全	さに作業で	きる。				
授業内容	1日目の学科 それぞれの講 【学科講習】 1. 走行、電関気 2. 作業に方法 3. 関係法令: 4. 関係法令: 【実技講習】 1. 走行の操作	自が教習所では、	造及び取扱いの 表置及び走行に関	2 日目の実 方法に関す 作業・積転に 搬・積転に 搬・運全 インによる	「る知識 装置の構 を開及び を を を は を まままり以 を を ままままれる を ままままます。 ままままままままままままままままままままままままままままま	: 原動機、 造及び取び び用途 作 掘削用)に 学及び土質 下中の関係 及び応用	動力伝達等 扱い方法 業装置及び よる一般的 エ学 土木 条条項 走行	作業に関する 内作業方法 施工の方法	・、かじ取り装置、ブ 附属装置の構造及び
テキスト・参考書	教習所で指示	されたテキス	ストを購入する。						
事前履修科目	大型特殊免許	を所有してし							
評価方法	1. 出席 0%		2. 試験 0%	3. 成身 0%	<b>!物</b> ————	4. 取組 0%	姿勢	5. その他(f 100%	修了証の取得)
関連する資格	車両系建設機	械運転技能記	構習修了証						
注意事項	・詳細は、掲	示板で連絡す		で資格を取	得した場	合でも、	修了証の写	しを提示すれ	ば単位認定する。
学生への メッセージ	林業、林業 資格の修了		林作業道などの追 きます。	 道づくりで	土木工事	 をする場	 合におすす	めの資格です	•

	科目	l				=	担当者(O	主担当)	
	玉掛け技能	講習		〇池戸	秀隆				
授業方法	講義・実習	開講時期	1 年後期	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	En 共通
背景と目的	作業がある。		ンた木材をワイヤ とめの技能を習得		使って荷	うを掛け、	運搬し、荷	īを外す「玉掛 <sub>.</sub>	と呼ばれる一連の
到達目標	・クレーン等 <i>の</i>	)玉掛け作業	美について理解し	を全に作	業できる	o			
授業内容	それぞれの講習 【学科講習】 1. クレ解ローン 摩タレーの 第 クレを 第 のでは 3. 法を関係法 第 では 4. 関係 【実技レーの 1. クいての 取り についての 取り についての 取り について の	精習はアカラ 習後に試験が に関東国を の下で ので ので ので ので ので ので ので ので ので ので ので ので ので	識:種類及び型: 必要な力学に関 速度 荷重 応力 方法: 玉掛けの- 生法、施行令規:	式 構造及 する知識: 玉掛用具 一般的な作 則及びクレ の選定及で	び機能 5 力 (合) の強方法 ノーン等 5	安全装置及 或、分解、 玉掛用具 安全規則中 Eめられた	なびブレー: つり合い; の選定及び ロの関係条1	キ 及びモーメント 使用の方法 基 頁	・) 重心及び物の安 本動作(安全作業方 上の重量を有する荷
テキスト・参考書	教習所で指示さ	れたテキス	ストを購入する。						
事前履修科目	特になし		0 - 1 - 1		- 44		<b>1</b> +1	<u> </u>	
評価方法	1. 出席 0%		2. 試験 0%	3. 成身 0%	具物	4. 取組 0%	姿勢	5. その他(作 100%	多了証の取得)
関連する資格	玉掛け技能講習	── <u>──</u> 『修了証							
注意事項	・講習に必要な ・詳細は、掲示 ・在学期間中に	板で連絡す		<b>ご資格を取</b>	得した場	合でも、	修了証の写	しを提示すれば	ば単位認定する。
学生への メッセージ	小型移動式ク 資格の修了記		重転技能講習を合 きます。	 わせて受	 講する場	<u>_</u> 合は、こ	— <u>−</u> −− の資格を先	 に取得しておく	くと有利です。

	科目				=	担当者(O	主担当)	
フォ-	-クリフト運転技能講習	3 <b>3</b>	〇池戸	秀隆				
授業方法	講義・実習 開講時期	1年後期	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	En 共通
背景と目的	原木市場や製材所では、原 が必要であり、この作業を安:					には、「フ	ォークリフト道	重転(1 トン以上)」
到達目標	・フォークリフトの運転操作	こついて理解	翼し安全に	作業でき	<b>きる</b> 。			
授業内容	【実習の進め方】 1日目の学科講習はアカデミ・それぞれの講習後に試験があ 【学科講習】 1. 走行に関する装置の構造及が制動装置直び表している。 2. 荷役に関する装置の構造及一ド及びバックレスト並びに方法 3. 運転に必要なカ学に関する。 加速度 荷重 応力 材料の強さる。 【実技講習】 1. 走行の操作:基本操作 フェー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	る。 び取扱いの びに方板 がび取扱いの ラム、バケッ の知識: カ( に 、施行令及 められたコー	方法に関す 〒器、警報 方法: フォ クトその他 合成、分角 び規則中の -スによる	る 知識 装置その ーフォー のフォー の 、	載: フォー )他いの方 フトの荷? -クリフト 合い及び= 項 「及び応用	クリフトの 法 没装置、油E の荷役に関 Eーメント) 走行	E装置(安全弁 引する附属装置	を含む。)、ヘツドガの構造及び取扱いの
テキスト・参考書	教習所で指示されたテキスト	を購入する。						
事前履修科目	大型特殊免許を所有している				:	<b></b> +.		
評価方法	* ** *	試験 )%	3. 成 9 0%	<b>분物</b>	4. 取組 0%	姿勢	5. その他(f 100%	修了証の取得)
関連する資格	フォークリフト運転技能講習	修了証						
注意事項	・講習に必要な経費は個人負 ・詳細は、掲示板で連絡する。 ・在学期間中にやむを得ず当	•	で資格を取	得した場	合でも、	修了証の写	しを提示すれ	ば単位認定する。
学生への メッセージ	林業系、林産業系のどちら 資格の修了証が取得できま		で使用する	林業機械	ですので	、おすすめ	の資格です。	

	科目				i	担当者(O	主担当)					
小型移動	動式クレーン運転技能	能講習	〇池戸	秀隆								
授業方法	講義・実習 開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	En 共通				
背景と目的	林業の現場では、伐採しり、降ろしたりする作業だこの作業を安全に行うだ	<b>がある</b> 。		一ン(吊	品上げ荷重	1トン以上	5 トン未満)	を運転し積み込んだ				
到達目標	・小型移動式クレーンの資	<b>重転操作を理解し</b>	安全に作	業できる	0 0							
授業内容	【実習の進め方】 1日目の学科講習はアカラ それぞれの講習後に試験が 【学科講習】 1. 小型移動式クレーンに全装置 がしている では	がある。 関する知識:種 及方法 る知識:内燃機 学に関する知識 ワイヤロープ、 生法、施行令規 運転:基本操作	類及び型式 関 油圧駆 : カ(合成 フッぴクレ 則及びクレ 重量の確認	t 主要権   動装 分解   以つ一ン等   荷のつ	精造部分 つ 感電による 、つり合い の強さ ワ 安全規則中	つり上げ、i 6危険性 ^及びモー ワイヤロー: ロの関係条項 をあられたi	起伏、旋回等の メント) 重心 プの掛け方と荷 頁	重量 速度及び加速 f重との関係				
テキスト・参考書	教習所で指示されたテキス	ストを購入する。										
事前履修科目	玉掛け技能講習を事前修了	<b>アしておくこと。</b>										
評価方法	1. 出席 0%	2. 試験 0%	3. 成身 0%	<b>!物</b>	4. 取組 0%	姿勢	5. その他(f 100%	修了証の取得)				
関連する資格	小型移動式クレーン技能認	<b>講習修了証</b>			-							
注意事項	・詳細は、掲示板で連絡す	・講習に必要な経費は個人負担とする。 ・詳細は、掲示板で連絡する。 ・在学期間中にやむを得ず当該授業以外で資格を取得した場合でも、修了証の写しを提示すれば単位認定する。										
学生への メッセージ	玉掛け技能講習の修了記 資格の修了証が取得でき		— <u>——</u> 場合は、	 講習が短	 期間で安	 くなります	•					

	科目					担当者(O	主担当)	
ź	キャリアデザイ	イン2	(	)杉本和也(	2年生担任	£)		
授業方法	講義・実習 開	清時期 2年	通年 時間	引数 30	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	が必要である。キ 就職・進学に向け	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2 は就職・進 をたてるとこ して、企業研	学に向けて計 ろからスタ- 修の内容を同	ートする。 同級生や 1	動するため 企業説明会	の授業である。 や、別で行う	イメージを描くこと 本科目では、まず、 企業研修を通して、 とで共有し、明確な
到達目標	・企業研修の内容	就職・進学のたと ぶを分かりやすくご 引確なイメージを打	プレゼンする	ことができる				
授業内容	をまとめて、企業4. 企業研修報告会	をする企業説明会( ききたことをプレー 画を立てる:自分 :履歴書を作成す アカデミーで実施 をの特徴を比較で 会:別で実施するな こ企業研修で体験	こ参加する。 ゼンテーショ でインター? る。 する。 する。 企業研修の内と してきたこと	ンにまとめて ペットや求人 引会に参加し 容を説明する を伝える。[	で発表する 票を用いて 、企業ブー かための体験	て調査を行い -スを訪問し レゼンテー	.、情報収集を ションを作成 <sup>っ</sup>	と計画をたてる。 行う。えられた情報 する。それを用いて、 くことで、様々な企
テキスト・参考書	特になし							
事前履修科目	キャリアデザイン	1、インターンシ						
評価方法	1. 出席 40%	2. 試験 0%	3.	成果物 20%	4. 取組 40%		5. その他 () 0%	
関連する資格 注意事項	特になし 特になし							
学生への メッセージ	2 年生の学びを ることですので、			の計画次第で	<b>ごす。もち</b>	ろん、皆さ	んの今後の人	生にも大きく影響す

	科	目					担当者(O	主担当)	
	企業研	修		〇杉本	和也(:	2 年生担任	<b>±</b> )		
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	240	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	どうかを肌感 就職を希望 を習得する。	覚で確認する する組織に、 研修中は日記	ることは重要であ 自ら研修を受け	うる。 けるための 吉果は報告	依頼をし 書にまと	,、研修を :めるとと	通して仕事	内容を理解し、	自分に合っているか 併せて知識・技術 発表する。これらを
到達目標	・自ら礼儀正	しく動いて、	や企業の仕事内容 目的の企業にア 字を、他人に正確	′ポイント	メントを		ができる。		
授業内容	2回内にのかでは、1にののでは	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	計は、夏期休暇中 始の1.5ヶ月前 開始の1.5ヶ月前 け入れのお願いを 皆の作成依有前まで 週間以内): 企業 とのでで、ので、ので、ので、ので、ので、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、	験表で いっか 前す ご行 研 内でをす施 にど で まる こう 修 : 修行るす そ、 ) で。 研。 が 研 内つ。 る れ他 自 : 学 終 修 容	。 その 日 担 よが 了 日 を 子の 日 担 よが し 報 発 ました ・ 表 すり まっぱい まいまい まいまい まいまい まいまい かいしゅう まいまい かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう かいしゅう はいしょう はいしょく はいしょく はいしょく はいしょく はいしょく はいしょく はいしょく はいしょく はいしょく はい	差し障りを希望があった。	のない時期 る組織を選 系希望先に対 系務局にイン 以内に礼状 を担当教員	とすること。 定し、担当教員 付する許可が得 ンターンシップ を作成し、事務	られたら、自ら希望に則った手続き(相
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	キャリアデザ	イン2							
評価方法	1. 出席 40%		2. 試験 0%	3. 成身 20%		4. 取組 40%		5. その他 () 0%	
関連する資格	特になし								
注意事項	・必ずインタ	 ーンシップ(	保険(事務局扱し	い)に加入	すること	0			
学生への メッセージ	インターン ところを真剣			里解 した上	での就職	が望まし	いので、逞	《定の段階から、	本当に就職したい

	—————————————————————————————————————	目				:	担当者(O	主担当)	
	環境教育	演習		〇萩原	<b>福</b> 裕作				
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	60	区分	選択	カテゴリ	En 共通
背景と目的		な学び・プロ	ノーパークの現場						林空間を活用した環 業とのつながりとは
到達目標	・環境教育の ・対象者の年	ゴールに対し 齢層の違いに	の問いに対して して自ら考えて行 こおけるアプロー いて自分なりの答	·動できる -チや反応	ようにな の類似点	る。			
授業内容	向気 こ間で 【1.ら つりつの数お 実. いい りゅう の数お 実. いい おき知 習体そま・・・・・ふふs 務のい 科を知 習体そま・・・・・・ かかの に はたせ 内 ぞ。ぜ今ら来なび業かかの に 会ら 日すし 容 れ 環ご考のるをとええ時 よ	外等い 割よま 】 の 境ニえ現年自のりり間 るで)ま りうす 現 教をて場齢分関 をに 授展のす 上に。 場 育を行で層化係 通他 業開中。 に自活 で や切動どのす しの 内して はら動は 語 自にすう間る てん 習	西動を しん たいき たい	がらいだな 以 点 て意め。こ の まを でまた ない また かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう はんしょう かんしょう はんしょう はんしょく はんしん はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんし	教 履んも 目に すく のの でんちょう はんしん かいしん かいしん まいん まいん まれん かいしん ままれん かいしん おいかい かいしん かいしん かいしん かいしん かいしん しんしん かいしん かい	さける まん はん はん はん はん がっぱん かん	なポイン 当にるか 深め とない とない ももし りり	・ や林業とのつ: 対員と授業実日を は、日程: よらうことを 目:	ク、出前授業、大人 ながりについて自ら 日程を調整し必要時 等含め後日メール等 に体験学習しても
テキスト・参考書	「のびやかに	自分になる」	伊勢達郎 著 他						
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 50%		2. 試験 0%	3. 成身 0%	<b>具物</b>	4. 取組 50%		5. その他 () 0%	
関連する資格	特になし				•				
注意事項	・授業内容の	【授業の進め	か方】に詳しく書	 いたので	、よく読	むこと。			
学生への メッセージ	日々の活動	の中で、異な	なる対象や異なる	ねらいに	向けた環	境教育を	体験できる	良い機会です。	¢.

	科	目		担当者(〇主担当)							
				〇横井	<del></del> 持秀一						
Ā	森林植物同類	定実習2			- ^ 3 =常勤講自	币					
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通		
背景と目的	成育段階の樹 各樹種がどん	木でも、どのな場所に生育 な場所に生育 主要樹種にご	D季節においても 育し、どんな成長 ついて、葉以外の	、正しく の仕方を <sup>-</sup>	ーーーー 同定でき するのか	る能力も、何に利	,身に付けて 用できるの	だおく必要がある かを知っている	る。さらに、どんなる。それと同時に、 ことも必要である。 態学的特性と利用特		
到達目標	・主要樹種の ・樹木図鑑を	実生稚樹や君 使って、不明	ら主要樹種(成木 吉木の同定ができ 月樹種の同定がて 寺性と利用特性を	る。 きる。		•					
授業内容	図鑑を携行し 【実習の内部 2. 葉生の様子 2. 実生の様子 4. シュートの 5. 樹形 による 6. 樹皮による 6. 樹皮	・てでです。 では、	財木を、学外の森 対大と使い方の習 に携帯に関す る。 に携帯 種 同の は 一 に を発芽 の 伸 表 様 子 の の 光 を 同 を で 樹種 する 様 な で 割とする な ご	R 熟度 を確 不 が を を も の ま 知 察 関 は の し 、 の に の の に の の に の の に の の の の の の の の の の の の の	める。 図(復習) は樹種( 樹形の肝 が樹種特性	する。 は、図鑑さ 立地を観 が成過程を 生を知る。	を使って同? 察し、実生 を知る。	定する。 の定着に適した	場所の特性を知る。		
テキスト・参考書 事前履修科目		大門 針葉	樹/樹木①②」「 E態、樹木・木材					」「花実でわかる	6樹木」など		
評価方法	1. 出席 40%		2. 試験 40%	3. 成身 0%		4. 取組 20%	]姿勢	5. その他 () 0%			
関連する資格	特になし										
注意事項			と筆記具・メモ (一般) 守れな					、取り組み姿勢	今を減点する。		
学生への メッセージ			樹木が同定でき、 しっかりと樹木を			_	 :は、基本で	 です。どんな姿で	であっても樹種が同		

	科目					担当者(O	主担当)	
	多様な森づくり		〇横井	持秀一				
授業方法	講義・実習 開講時期	2年前期	時間数	45	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	森林施業は、本来、自然展開するには、相応の自然本科目では、様々な森村ことを目的とする。	大科学的な知識な	b造林学的	な知識、	合理的な	思考能力が	必要である。	
到達目標	・目的機能に対する目標 ・皆伐一斉林施業の長所・ ・択伐林施業が可能な条件 ・天然更新が可能な条件で ・広葉樹林を育成する留意	・短所を説明でき ‡を説明できる。 £説明できる。	<b>きる</b> 。	0				
授業内容	1. 天然更新: 天然下種更 2. 皆伐一斉林施業: 皆伐 斉林施業による森林経営の 3. 択伐林施業: 択伐林施 4. 広葉樹林施業: 広葉樹協造林樹種の特性、広葉樹 5. 針葉樹人工林におけるが広葉樹林への転換の考えて 6. 林業の多様性: 自伐林 7. 森林の公益的機能と目	一斉林施業におり り保続を考える。 業の考え方と施 の樹形と成長の 対人工林施業にお 立葉樹の扱い:針 ちと手法などを学 業と請負林業の	ナる生産目業方法を労 関係を学ふいる はける適し人工 なが。 違いを考え	目標と目れた。 が。広文 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	票林型の関 戈林施業に 対天然林施 は林阻害要 した広葉 林経営・柔	引係、伐期のこよる森林が 業の考えた。 因を知る。 樹の取り扱	つ考え方、施業( 経営の保続を考 うと各種作業の い、針葉樹人工 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	える。 しかたを学ぶ。広葉 林から針広混交林・ 性を考える。
テキスト・参考書	参考書:「森づくりの原理り」など						国の森林づくり	」「広葉樹の森づく
事前履修科目	森づくりの基礎、森の生態 1. 出席	態、森の立地、樹 2. 試験	対木・木材 3. 成身		<sup>7</sup> 、林業の 4. 取組		5. その他()	
評価方法	50%	0%	3. 成分 40%		4. 月X和 10%		0%	
関連する資格	特になし							
注意事項	・見学先は履修状況・相号 ・現地見学時のドレスコー				合は、取	り組み姿勢	を減点する。	
学生への メッセージ	林業というのは、本来、 の授業を通して、まずはそ 考え方が必要なのかを学ん	そのことを認識し						

	科	目					担当者(O	主担当)	
	森林保	護		〇津田	日格				
授業方法	講義	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	原因や性質、 論と技術的方 本科目では	森林、林木へ 法論を理解す 森林病虫害を	への影響を生理・ 「ることを目的と	生態学的 :する。 概念、病	に理解す	る能力を	つける。ま 係等につい	たそれらの危害	き害について、その その予防、駆除の理 類による樹木病害、 なする。
到達目標	・主な病原体 ・主な森林昆	の生態、宿主 虫の分類群、	号について知って Eとの関係、被害 生態について知 理論的に考え、遊	F様態につ 1っている	0	ている。			
授業内容	<ol> <li>病気の概念</li> <li>病原生物を</li> <li>病原生物を</li> <li>病原生物を</li> <li>が類概論:</li> <li>菌類の生理</li> <li>がったます</li> <li>森林昆虫の</li> <li>森林昆虫の</li> <li>外枯れ被害</li> </ol>	念: 病主・妻子 ( ) をおりの 病 病 と まり な と いいい ない ない ない まい ない まい はい ない まい はい ない まい はい かい まい はい	について 気、生物 生物 まで まで はいで を 生物 で がで 数 は は い い る り で 数 り で 数 り ま り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、 り 、	と主要ないでは、生まれていると、生まれている。と、生まれている。と、生まれている。と、生まれている。と、生まれている。と、生まれている。と、生まれている。と、生まれている。と、生まれている。と、生まれている。これでは、生まれでは、まれでは、生まれでは、生まれでは、生まれでは、生まれでは、生まれでは、生まれでは、生まれでは、生まれでは、まれでは、生まれでは、まれでは、まれでは、まれでは、まれでは、まれでは、まれでは、まれでは、	で学ぶ。 対木に及り 詩書とその 群、生理 の防除り ひ仕組み、	ます影響( D)防除につ !・生態に こつい に 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	こついて学ぶ。 ついて学ぶ。 ついて学ぶ 学ぶ。 こついて学ぶ	世界3大樹病に	こついて、病気が拡
テキスト・参考書 事前履修科目	参考書:「樹木	下診断調査法	」(講談社)、「桔	才医学」	(朝倉書)	吉)など			
評価方法	1. 出席		2. 試験	3. 成5	 果物	4. 取組		5. その他 ()	
関連する資格	40% 特になし 特になし		40%	0%		20%	0	0%	
学生への メッセージ			関係が人間にとっ ロ識、技術を身に						森林に密接に関わる

	科	目				ŧ	担当者(O	主担当)	
	<u> </u>			〇津田					
	森林保護	実習		<u> </u>	木一郎				
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	En 共通
背景と目的	らの病虫害を 実習を通じて	より深く理解体験的に学る	解し、予防、防防 ぶ。森林昆虫につ	注がを習った。 いては、	得するこ その採集	とを目的 方法、同	とする。煮 定、標本作	森林、林木に対 ■製方法を学ぶ	ることにより、それ 対する危害に関して、 ぶ。また里山林におい ・観察し、調査、診断
到達目標	・主な病原体	の生態、宿主	ヽて概要を知って Eとの関係、被害 などから、病虫害	F様態につ					
授業内容	下記の項目に 開催順序はフ 【授業の内容 1. 樹木病害の 2. 森林昆虫の 3. マツ材線虫	ルドと実験3 ついて、各ロインドの* 】 )観察、診断 )同定、標本 3病の調査:	室における実習で 到半日~1 日でり 大況により、前後 : 周辺の樹木 で 作製: 同辺の樹木 標 樹脂 : 枯死木から紅	施する。 する可能が 見られる症 本作製を遅 本作製を遅	性がある 「虫害にごなる	のいて、種林昆虫の分間査する。	う類群を知る	<b>ర</b> ం	ン、同定する技術を身
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	森林保護								
評価方法	1. 出席 40%		2. 試験 0%	3. 成果 30%		4. 取組 30%		5. その他 ( 0%	()
関連する資格	特になし								
注意事項			曲、長ズボン(汚 必要に応じて連絡		いもの)、	ヘルメッ	ット着用の	こと。	
学生への メッセージ			関係が人間にとっ 印識、技術を身に						森林に密接に関わる

	科	<u> </u>				į	担当者(O	主担当)	
				〇新津	<u></u>				
キャンプカウ 	ウンセラー第	実習 2(点	5用編・夏)	莉	<b>逐原裕作</b>				
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	75	区分	選択	カテゴリ	En 共通
背景と目的	キャンプ) の 外にも、自己	現場で、子 & を再発見し、 、昨年の反省	ごもたちと向き台 お互いを認め台 旨を踏まえて、1	うカウン うよい機	セラーと 会でもあ	して活動 る。	する事で、	森林空間の新た	る。自然教室(夏のたな利活用を知る以 見て動けるように意
到達目標	<ul><li>・子どもたち</li><li>・活動現場を</li><li>・現場で必要</li></ul>	と向き合う¶ 支えるため <i>0</i> な自然の知詞	らたちの成長の場 の楽しさ、難し の企画・準備をは 戦や野外技術、要 な要かに気づきぞ	・ な を は は いさ を 体 感 するこ で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	し、自分 とで、自 術を身に	なりの感 分で考え	覚を身につ	· · · · · · · ·	
授業内容	【1.子準 2.本・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	本 】 ン事 中験き士行・でと利 ) 通 る る 番 】 ン事 中験き士行・でと利 ) 通 でが合の動学どい活 し 授 であうう用 て 業 のかい こきかと持 ら 容 】 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	で学習する。(************************************	i.方や、子 放課後) i.ながら体! i.は	どもたち	との接してもらう。	方、自分 <i>た</i> 。		ん)。
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし					:			
評価方法	1. 出席 50%		2. 試験 0%	3. 成身 0%	<b>是物</b>	4. 取組 50%		5. その他() 0%	
関連する資格	特になし								
注意事項	・直前に宿泊	型の研修を行	≛備期間では、扌 テうこともありま こ一緒に寝泊まり	す。			後に集まる	ことがあります	r.
学生への メッセージ	大変ですが さい。	、子どもたち	らと真剣に向き台	える、と	てもやり	がいのあ	る体験です	⁻よ。是非チャ↓	レンジしてみてくだ

	科	目					担当者(O	主担当)	
	木++ ハ 4	Th 54		〇伊佐	E治彰祥				
	森林公共	:以朿 		<b></b>	常勤講師	<u> </u>			
授業方法	講義	開講時期	2年後期	時間数	15	区分	必須	カテゴリ	En 共通
背景と目的	応した様々な この科目で	施策展開や抗 は、林政部名	支術の開発、普及	の取組が F究機関、	行われて 市町村か	いる。			・林産業の現状に対業の現状と課題、そ
到達目標			林産業の現状と課 ₺理解し、必要な		_	-	できる。		
授業内容	取り組む 2. 市町村林 市町村に 3. 試験研究	政部各課(本の施策の概要 業行政の取終 おける林業行 機関の取組	林政課、恵みの森 要と背景、課題を 且: 〒政の現状と課題	学ぶ。	策を学ぶ	0	林整備課)	が	
テキスト・参考書	随時プリント	配布							
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 80%		2. 試験 0%	3. 成身 0%	や	4. 取組 20%		5. その他 () 0%	
関連する資格	特になし								
注意事項	・授業は、0. ・講師都合に		を実施する。 を変更する場合が	 がある。 					
学生への メッセージ			改・試験研究機関 る貴重な機会です					今後の方向性	等の貴重な情報を直
				F100					

	科目				担	旦当者(O	主担当)	
			〇新津	≧裕				
キャンブカウ	フンセラー実習	習2(応用編・冬)		灰原裕作				
授業方法	実習開	<b>清時期</b> 2年後期	時間数	45	区分	選択	カテゴリ	En 共通
背景と目的	キャンプ)の現場外にも、自己を再	対生産の場としてだけで 計生産の場としてだけで 計で、子どもたちと向き 対見し、お互いを認め 手年の反省を踏まえて、 いてもらう。	合うカウン 合うよい機	セラーと 会でもあ <sup>ん</sup>	して活動 <sup>.</sup> る。	する事で、	森林空間の新	たな利活用を知る以
到達目標	<ul><li>子どもたちと向</li><li>活動現場を支え</li><li>現場で必要な自</li></ul>	)「子どもたちの成長の ]き合う事の楽しさ、難 _るための企画・準備を 自然の知識や野外技術、 、何が必要かに気づき	しさを体感 体験するこ 安全管理技	し、自分 とで、自 術を身に	なりの感 <sup>9</sup> 分で考え	覚を身につ		
授業内容	【実準備 中と 中 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神	さうということ P連携 対することとは さんできたことを活かす ごう活かせるか いうこと 5用と持続的な林業 いて自らの学びを深めて	え方や、子 (放課後) れながら体 <sup>†</sup> には いく。	どもたち 験学習し <sup>-</sup>	との接し;	方、自分 <i>た</i>		
テキスト・参考書	特になし							
事前履修科目	特になし							
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成男 0%	具物 	4. 取組 50%		5. その他() 0%	
関連する資格	特になし							
注意事項	・直前に宿泊型の	までの準備期間では、 )研修を行うこともあり 子どもと一緒に寝泊ま	ます。			<u></u> 後に集まる	ことがあります	t
学生への メッセージ		らではの楽しみがあり のか?一緒に盛り上け			日と短い	期間ですか	、その中でどん	んな活動が子どもた

	科	<b>1</b>					担当者(〇	主担当)	
		-		〇横井	秀一(学	————— 科主任)			
	総合演習	월 1		担	当教員				
授業方法	実習	開講時期	通年	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	En 共通
背景と目的	時間も必要で この科目は	ある。 、規定の授		トに学習でき	きなかっ	た場合な			た課題を掘り下げる練習・調査・研究を
到達目標	・目標とする	技能や成果で	を得ている。						
授業内容	【実習の内容 1. 対象とする 2. 活動の内容 また、授業で 3. 活動の認定 4. 履修認定:	- Tan - Ta	とことに関する、 とエンジニア科 <sup>5</sup> 数の活動を要する 活動内容がわかる	科目に関す 提供時間を 理解を深め 学科主任と る。複数の	・超えた。 かるため の協議を 取り組み	実習時間の調査なる。	、実習終了ごとも対象と	後の報告書作店 する。 けることができ	战なども対象とする。 る。履修認定・成績 出を必須とする。必
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 50%		2. 試験 0%	3. 成果 20%	物	4. 取組30%		5. その他 () 0%	)
関連する資格	特になし								
注意事項			寺間に実施するこ ドレスコードを遵		<b>:</b> •				
学生への メッセージ	興味ある分!	<u></u> 野にチャレン	<b>ンジする機会を</b> 提	 供します <i>0</i>	ー Dで、積	極的に取	り組んでく	ださい。	

	科	<b>1</b>					担当者(〇	主担当)	
		-		〇横井	秀一(学	科主任	)		
	総合演習	월 2		担	当教員				
授業方法	実習	開講時期	通年	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	En 共通
背景と目的	時間も必要で この科目は	ある。 、規定の授		に学習でき	きなかっ	た場合な			た課題を掘り下げる練習・調査・研究を
到達目標	・目標とする	技能や成果で	を得ている。						
授業内容	【実習の内容 1. 対象とする 2. 活動の内容 また、授業で 3. 活動の認定 4. 履修認定:	示に従い実 ] が活動:これ では、ままでもいが では、担当教員 は、担当の時間と には、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	こことに関する、 とエンジニア科 <sup>4</sup> 数の活動を要する 舌動内容がわかる	科目に関す 提供時間を 理解を深め 学科主任と る。複数の	を超えた。 かるため の協議を 取り組み	実習時間の調査なる。	、実習終了 ども対象と	後の報告書作所: する。	成なども対象とする。 る。履修認定・成績 出を必須とする。必
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	総合演習 1								
評価方法	1. 出席 50%		2. 試験 0%	3. 成果 20%	:物	4. 取利 30 <sup>9</sup>		5. その他 () 0%	)
関連する資格	特になし								
注意事項	・他の授業に	支障がない	みの場合に履修? 寺間に実施するこ ドレスコードを遵	. ک					
学生への メッセージ	興味ある分!	野にチャレン	ンジする機会を提	提供します <i>0</i>	Dで、積 <sup>/</sup>	極的に取	り組んでく	ださい。	

	—————————————————————————————————————	■				±	旦当者(O	主担当)	
		\ <del></del>		〇杉本	和也				
	森づくり指	導実習		泄	1戸秀隆/	/伊佐治彰	<b>洋</b>		
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	En 林業
背景と目的	指導を行う。 おく必要があっ	指導するため る。道具の2	かには、自らが知	ロ識やスキ 見の操作方	ルを有す 法に至る	る必要が	あり、再度	1年時に実施	年生の実習系授業の した実習を復習して 、より確実に伐採搬
到達目標	・各自で課題	を設定し、必	必要な授業を受請	してスキ	ルアップ	を目指す。			
授業内容	加し、マーカンソ 1. チェーンソ 2. 牽引具の使 3. 伐倒 マーカン 1. マーカー 1. マーカー 2. 本引 1. マーカー 2. 本引 2. 大り 1. マーカー 2. 本引 2. 大り 1. マーカー 3. 大り 1. マーカー 3. 大り 1. マーカー 4. マ	支術を作り できる かい 手配習記 できる かい いっと かい 手配習記 り でい できる かい 配置得り 現場の おい できる かい できる かい	かるとともに 1 年	至生に対しています。 での指導をできます。 でのおいます。	て指導を 行う。 機入門、	伐木造材質	実習等)に	おいて、	<b>年生向けの実習に参</b>
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 60%		2. 試験 0%	3. 成果 0%	 具物	4. 取組		5. その他 () 0%	
関連する資格	特になし								
注意事項	特になし								
学生への メッセージ	未熟な項目を	を復習し、し	, っかり技術を定	≧着させよ	う				

	科目				į	担当者(O	主担当)	
	11 Alle 4= 64		〇池戸	·秀隆				
	林業架線		非	常勤講師	/杉本和	1也/伊佐氵	台彰祥	
授業方法	講義・実習開講	時期 2年通年	時間数	150	区分	選択	カテゴリ	En 林業
背景と目的		i や作業道が開設でき 深線作業主任者免許規						去に必要な知識や技
到達目標		者講習における学科 技講習内容を修了す		修了する。				
授業内容	使用した機材を点検また、林業架線に必 【学科講習】 1. 機械集荷重の業に 2. 林業架線作業等の業に 3. 林業架線作業場 4. 関係法部 1. 索技柱、よる 2. 支柱、集材を全方 3. 機械集のの止め 3. 機械集のよの 4. 主っている 5. 鋼転実習 【実務者による授業	関する知識:組立て、 必要な力学に関する知 安全衛生法、施行令及 えの取り方並びに点検 作り方および点検 の主要機器の据え付け の点検 よび継ぎ方、荷かけま	納する。 知解識び 方 よび荷ははず	ける。 機、運材が 法並びに 量、重心 の関係条	機、その 集材及U 、滑車	他の附属器	8具、索張り方	
テキスト・参考書事前履修科目		者テキスト」、「集材相 担で購入。なお、詳細				用テキスト	」(林業・木材	製造業労働災害防止
評価方法	1. 出席 30%	2. 試験 50%	3. 成果 0%		4. 取組		5. その他 () 0%	
関連する資格	林業架線作業講習修	了証、機械集材装置の	の運転業務に	こ係る特別	教育修	了証		
注意事項	<ul><li>全課程出席者で修</li></ul>	いては、それぞれ修 で試験に合格した者( 「レスコードを遵守す	のみ修了証			修了と認め	o る。	
学生への メッセージ	将来、現場で架線 資格の修了証が取	集材に携わるなら、 2得できます。	 お勧めするi	 資格です。				

	科目				担当者(〇	主担当)	
	. 1 . 1 . 1 . 1		〇伊佐治彰祥				
	山地防災 		非常勤講師	師			
授業方法	講義・実習 開講時期 2年	通年	寺間数 30	区分	必須	カテゴリ	En 林業
背景と目的	急峻な地形の多いわが国では、 砂防事業が行われている。 この科目では、事業の必要性、 対策、工法等の治山・砂防技術を	災害発生の					
到達目標	<ul><li>・山地防災の歴史、山地災害の発</li><li>・治山と砂防の関連性、森林や緑</li><li>・治山工事、砂防工事の現場状況</li><li>・治山や砂防の計画で用いられる</li><li>・治山や砂防の工事事例、取組事</li></ul>	地の保全と を知ってい ツールや基	山地防災の因果 る。 礎的な計算方法	関係を理		o	
授業内容	1. 治山・砂防工学概論: ・山地防災の歴史及び、山崩れ学ぶ。 2. 森林水文学・緑化工概論: ・治山・砂防工学との関連性、 3. 砂防・治山工法の実際(現場・過去に治山・砂防計画演習: ・流量等の水文計算、構造物の 5. 過去の治山・砂防業の事きた、 2. 森林水文学・緑化工概論: ・治山・砂防工学との関連性、 3. 砂防・治山工法の実際が施工画と工法、施工技術等を学ぶ。 4. 治山・砂防計画演習: ・流量等の水文計算、構造物の 5. 過去の治山・砂防れてきた、	森林や緑の 見学): された現場 安定計算等 最近の動向	保全と山地防災 や、現在施工中 を、GISやP :	その因果関 中の現場見 ・Cソフト	係等を学ぶ 学をとおし を活用し演	。	
テキスト・参考書	随時プリント配布						
事前履修科目	特になし		- n=				
評価方法	1. 出席     2. 試驗       70%     0%	į	3. 成果物 10%	4. 取組20%		5. その他() 0%	
関連する資格	特になし						
注意事項	・授業は、1.0日×4回で実施する ・項目の内容、組合わせは、授業 ・クリエーター科「山地防災」と	の進捗状況		より変更	される場合	がある。	
学生への メッセージ	山地防災は、土木分野の色合い 壊防止、水源涵養など森林の多面 ともある。この科目をとおし、災	的機能に関	連するものであ	5り、不適	切な森林施	業が災害発生の	

	科目				:	担当者(〇	主担当)	
	<b>₹</b> 11 m/ <del></del>		〇伊佐	E治彰祥				
	森林獣害 		親	「津裕/』	<b>  常勤講</b> :	<b>T</b>		
授業方法	講義・実習 開講時期	2年通年	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	En 林業
背景と目的	我が国の森林獣害の約 今後、森林獣害対策の知 この科目では、森林獣 技術についても狩猟免許	識・技術は、森材 害対策の基礎知識	株技術者の	必須スキ 析を学び.	ルになる 、併せて、	と考える。 対策を講		
到達目標	・森林獣害対策の必要性 ・森林害獣の種類、状況 ・必要な対策を考え、実	を判断できる。						
授業内容	【講義・実習進め方】 配布資料、映像資料、常 【講義・実習の内容】 1.森林獣害の基礎知識 ・加害獣の種類と生態。 2.森林獣害対策用いらお 3.狩猟の制度と技術: ・狩猟免許(わな猟)の 4.捕獲技術の実際: ・わな猟に同行し、設 【実務者による授業内容 この授業は林業事業体でも	: 、加害の仕方、被 れる様々な手法や )取得に必要な法 置技術、獲物の処	皮害の現状 ○資機材の 令知識、 鳥 □理技術を	、野生動 取扱いを 豊獣に関す 学ぶ。	物管理の学ぶ。	必要性等を 猟具に関	学ぶ。	
テキスト・参考書	狩猟読本 随時プリント配布							
事前履修科目	特になし	0 = 1000	0 5=	3 44-	4 /-	\Ar ±+	F	
評価方法	1. 出席 80%	2. 試験 0%	3. 成身 0%	具物 	4. 取組 20%		5. その他() 0%	
関連する資格	狩猟免許(わな猟)							
注意事項	・授業は、1.0日×4回で ・天候、現場等の状況に、		<b>ドを変更す</b>	る場合あ	IJ。			
学生への メッセージ	現在、林業の現場におられている。一方で、将 おしてほしい。							

	科 目					担当者(O	主担当)			
	11 40		〇伊佐	生治彰祥						
	林業 ICT		į	<b>丰常勤講</b> 師	5					
授業方法	講義・実習開講	時期 2年前期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 林業		
背景と目的	れるようになってい	表的なICT技術で								
到達目標	・GIS技術の概要 ・GISを活用した	を理解している。 -基礎的なデーター加	工、資料作	成を行う	ことがで	きる。				
授業内容	<ul> <li>様々な測地系、</li> <li>2. GIS の操作:</li> <li>・岐阜県公開型 G</li> <li>3. デジタルコンパーデジタルコンパー・デジタルコンパー・デジタルコンパー・</li> <li>4. スマートフォンク</li> </ul>	i I S技術の概要基礎 投影法、座標系を学 IS や一般 GIS ソフト パスと GIS の連携活用 パスの測量データーを	ぶ。 における、 : 活用し、GI	描画、属 <sup>情</sup> S との連携	携方法を≒	学ぶ。				
テキスト・参考書	随時プリント配布									
事前履修科目	「測量技術」 	ე <del>=</del> ታ∉ዽ	3. 成身	₽ サ/m	/ H= 4□	次熱	5. その他()	<u> </u>		
評価方法	80%	2. 試験 0%	3. 成分		4. 取組 10%		5. その他()			
関連する資格	特になし									
注意事項		4 回で実施する。 天候等の都合により 「林業ICT」との合			合がある	0				
学生への メッセージ	林業ICTの活用により、業務の省力化、スピードアップ、情報の共有など様々なメリットが期待できる。林業ICTは、今後活用機会の増加する技術であり、この科目を通じ、理解を深めてほしい。									

	科 目				担当者(〇	主担当)	
	Agg 1		〇横井秀	:_			
	選木・伐採実	習	杉本	和也/池戸	5秀隆		
授業方法	実習開調	<b>講時期</b> 2年前期	時間数	30 区:	分 必須	カテゴリ	En 林業
背景と目的	しい方向に伐倒で 技術を身に付けて(	て、重要なことが 2 つるきることである。現場打いることが求められる。 と伐採を繰り返して訓練	支能者が選木	作業と伐採	作業を同時にこ	なすことが多い	ハ日本では、両方の
到達目標	<ul><li>現況に合わせた(</li><li>安全管理をしなが</li></ul>	せた選木をし、選木の理 戈倒方向を決めることだ がら伐倒作業を進めるこ こ正確に伐倒することだ	ができる。 ことができる。				
授業内容	【実習の内容】 1. 選木実習:調査 理由を説明する。〕 2. 伐採実習:伐倒	おこなう。 ま2グループに分かれて プロットを設定し、毎 選木結果から、間伐の様 方向を検討する。伐倒 到作業をおこなう。伐係	木調査を行う 既要(間伐率 <sup>;</sup> 方法を検討す	。教員の指 など)を示 る。伐倒前	示内容を理解し	ン、育成木・間 <sup>ん</sup>	
テキスト・参考書	特になし						
事前履修科目	間伐の選木技術、	チェーンソーの操作基础	楚 (特別教育)	、伐採実習	3		
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成果物 0%	<b>J</b> 4.	取組姿勢 50%	5. その他 () 0%	
関連する資格	特になし						
注意事項	・伐採実習時のド	レスコード:1 実習(- レスコード:2 実習(伐 守れない場合は、取り約	採)	 点する。			
学生への メッセージ		術と伐倒技術は、しった かを考えながら、実習に			い重要な技術で	ーー です。作業のポー	イントを確認し、何

	科 目				:	担当者(O	主担当)	
± = 7		+ 0.1 +/	〇池戸	秀隆				
里 甲 系	木材伐出機械の物	<b>寺別</b> 教育	札	/本和也/	/伊佐治章	<b></b>		
授業方法	講義・実習 開講時	·期 2年前期	時間数	60	区分	必須	カテゴリ	En 林業
背景と目的	産が欠かせない。	∤生産を行うために( ○仕組みや操作方法で						
到達目標	・法令に基づく特別者ができる。	文育のカリキュラム(	こ則り、学	科及び実	₹技の教育	を行い、高	性能林業機械を	· 使った木材の生産
授業内容	<ol> <li>簡易架線集材装置上記1の学科の知 【実技講習】</li> <li>伐木等機械の運転</li> <li>走行集材機械の運</li> <li>簡易架線集材装置</li> </ol>	に径級・長級に仕名の (安衛)第36条第36条第36条第36条第36条第36条第36条第二次 (京野)第二次 (京野) (京野) (京野) (京野) (京野) (京野) (京野) (京野)	計け作6置に第を3転やま556ま555 <t< th=""><th>してび 識 3 きって 乗り で は が 識 が 機の 装 で 乗 転</th><th>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</th><th>ではい積作 に関する知 請 き え る。 売 み 替 え る。</th><th>業を行う。</th><th>ワーダに積込み土場</th></t<>	してび 識 3 きって 乗り で は が 識 が 機の 装 で 乗 転	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ではい積作 に関する知 請 き え る。 売 み 替 え る。	業を行う。	ワーダに積込み土場
テキスト・参考書 事前履修科目	車両系林業機械安全でなお、詳細は掲示板で 特になし		<b>卜材製造業</b>	労働災害	防止協会	発行)自	己負担で購入。	
評価方法	刊になり 1. 出席 50%	2. 試験 30%	3. 成5	<b>果物</b>	4. 取組		5. その他 () 0%	
 関連する資格			- /*	運転業務	-			
注意事項	全課程出席者のみ修了実習では指示するドレ	/証を交付する。	<u> </u>					
学生への メッセージ	高性能林業機械やクロックでは、100円では	「ラップルなどの大 <u>₹</u> Eが取得できます。	型林業機械	から、材		や集材ウイ	ンチといった小	N型林業機械の運転

	科 目					:	担当者(〇	主担当)	
				O杉4	r∓⊓#h				
高性	生能林業機械	操作基础	楚						
			<u> </u>	ž	也戸秀隆。	/伊佐治章	<b>┊祥</b>		
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	60	区分	選択	カテゴリ	En 林業
背景と目的	び運転操作の技	<b>がを体験</b> す		京・架線	系の両作	業システ	ムへの理解	『を深める。ま	ンテナンスの基礎及 たチェーンソーによ 。
到達目標	・走行集材機械 ・簡易架線の索 に行うことが出	【の安全かつ 表張り(ラン 】来る。	スムーズな操作か Oスムーズな操作 レニングスカイラ 品質を考慮し、チ	が出来る	· 等)につ				の走行までスムーズ
授業内容	技日る	「代る作 構 、水の、習めを レ ツ 材品の 実作業 と 、ベ作、のれら N 、ル 作質 習業量 と 、ベ作、のれら ル の 業や がある。 (	、ルを達成できて、燃機械稼働時間、燃 テナンスの基礎 ス・スイングスをインクスをインクスをインの表で、 は、シテナンスの基礎 は、これでは採搬出し、 は、これできる。 は、これできる。	ていれて ない かんしょう ない かんしょう かんしょく かんしん かんしょく かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんしん かんし	次な フ操 のンソー 作業ががで	かりし、 がりし、 がり が うっ での を で の 枝 も る き る き る る る る る る る る る る る る る る る	人の技術課 にし、実習地 ルを想定しし 。また機械	問題を意識して の進捗を確認 ているが、変動 なの構造を知り 原木市場での関	から林業機械の操作 実習を行う。また毎 しながら実習を進め 可能性あら 可能性方法に安全を想っている。 安全がつてな機械
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	車両系木材伐出	機械の特別	 刂教育						
評価方法	1. 出席 60%		2. 試験 0%	3. 成 0%	<b>果物</b>	4. 取組 40%		5. その他() 0%	)
関連する資格	特になし								
注意事項	・ドレスコート	:2 実習(	(伐採)。						
学生への メッセージ	安全第一!各	自テーマを	をもって実習しよ	う!					

	—————————————————————————————————————	■				1	担当者(O	主担当)	
	± 11 //- 31/4 \ 24	1174		〇池戸	 秀隆				
	森林作業道	・杯迫		<b>木</b>	<b>彡本和也</b>				
授業方法	講義・実習	開講時期	2 年後期	時間数	45	区分	必須	カテゴリ	En 林業
背景と目的	-	科目では、木							や密度が重要な意味 作業道の設計を実習
到達目標	<ul><li>IP を決め、</li><li>縦断及び横</li></ul>	曲線設置がた 断測量ができ							
授業内容	その後、演習者 野帳を基に、 <sup>3</sup> 【実習の内容】 1. 林内路網の 断図、横断図の 2. 測量機器の 3. 演習林で測	場所で、IP( 場所で、、実際 はない。 は本でののでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	の設置、曲線設置、曲線設置、曲線設置を所図及び横断図及び横断の地域を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を	想定した 作り、土 道及び森村 に見る かま で が が が が が が が が が が が が が が が が が が	線形を計 工量に関 *作業道 <i>の</i> ッドコン/	画し、機 する数量 )種類と機 パス、レク	器で測量し 計算を行い 能を講義、	設計する。 カーブセット	記録する。の手順、平面図、縦
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 50%		2. 試験 0%	3. 成 30%		4. 取組 20%		5. その他 () 0%	
関連する資格	特になし								
注意事項	特になし								
学生への メッセージ	現場で林業品	路網の設計は	こ携わろうと考 <i>え</i>	ている方	には受講	していた	だきたい科	目です。	

	科	<b>目</b>					担当者(O	主担当)	
	,, di. cs	n		〇杉本	和也				
	作業道作詞	<b>投実</b> 習		洲	1戸秀隆				
授業方法	実習	開講時期	2年後期	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	En 林業
背景と目的	ながる。実際	に実習を行い		ポイント	について	学ぶ。演	習林の計画	i路線において	足は盛土の崩壊につ 作業道を作設し、バ
到達目標	・バックホウ ・バックホウ ・構造物を設	による土の糸	きする。 帝固めが出来る。						
授業内容	が 【 1. 2. 3. 4. 2. 3. 4. 2. 3. 4. 5. 3. 4	用いて作業が、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	方法) 法 法 シ転圧方法につい かの施工方法につい がの施工方法につい で学ぶ。	ī法を学び いて学ぶ。 かいて学ぶ かいて学ぶ	、操作技			設置など必要	な作業を順次行いな
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 60%		2. 試験 0%	3. 成身 0%	<b>旱物</b>	4. 取組 40%		5. その他 () 0%	
関連する資格	特になし								
注意事項	特になし								
学生への メッセージ	作業道を作	 って演習林を	を車で通行できる	ようにし	<u></u> よう!				

	科目					1	担当者(O	主担当)	
高性能林業植	機械作業シスラ	-ム(車両・	架線)	〇杉本	和也				
授業方法	講義・実習 開	講時期 2	年後期	時間数	15	区分	必須	カテゴリ	En 林業
背景と目的	選択を行うことは	とても重要で ヤーダや従来	ある。生産型架線とい	ミシステム いった架線	には大き 系システ	く分けて -ムがある	、作業道と 。各林業機	林業機械を組	た路網配置や機械の み合わせた車両系シ テムの特徴を知り、
到達目標	・林業機械の種類 ・締固めの目的や ・注意すべき地形 ・路網の規格に合	検査方法、基準	準について て知ってい	知ってい いる。		・、ステア	リング方式	、駆動方式、‡	妾地圧)。
授業内容	<ol> <li>林業における:</li> <li>株機性に 生きいけい という という という という とない という はい はい という はい はい はい という はい という はい という はい という はい という はい とい</li></ol>	代木~運搬) 実測を行い、 、(車両系、架 に気をつけるを をシステムを ついては別授 の構築および率 を学び、効率 でクリエー	や車 線べ想業 産的 ター 線べき にイン 線する にイイで施す コシューション はまれる かいまれる かいまれる かいまれる かいまれる かいまれる かいまれる かいまれる はいい かいまれる かいまれる かいまれる かいまい はいい かいまい はいい はい は	機械の構造 接域の構造 にたをを はたをを計る。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	や接いとがません。	について 要 画 帯密 作 か り 対 け し ままままままままままままままままままままままままままままままままま	)について の規格につ (クリエー ピン適地な 材距離の評 マー科共通	いて考えます。 -ター科共通)【 - どの塗り分け? - 価を行います。	【3コマ <b>】</b> を行います。
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 60%	2. 試 0%	験	3. 成身 0%	き物 こうしょう	4. 取組 40%		5. その他 () 0%	
関連する資格 注意事項	特になし 特になし								
学生への メッセージ	もっとも労働災	害の頻度が高	い林業。事	事故の事例	やリスク	アセスメ	ントから安	全について考	えます。

	 科 [					:	担当者(O	主担当)	
	<b>₩</b>	<del></del>		〇池戸	秀隆				
	架線応用	美省 		杉	本和也/	伊佐治章	5祥 ————————————————————————————————————		
授業方法	実習	開講時期	2年後期	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	En 林業
背景と目的	林業架線作業 身につくよう			<b>哉を踏まえ、</b>	、自ら現場	易で判断	し機械集材	才装置の設置、	木材の搬出、撤収が
到達目標	・設置作業を行き機械集材装置・撤去作業を行	テうことがで 置の運転を行 テうことがで	テうことができる	, ,	とができる	, , ,			
授業内容	集材機の外、名 【実習の内容】 1. 架線設置の 2. 架設:集材 控え索などの記 3. 試運転:無 4. 集材:単幹 5. 撤去:撤去:撤去	で機械集材が タワーク 準備:必要 機の設置、搬での 段置荷索で荷路 集材でを行い	表 で を で で は に は に に に に に に に に に に に に に	: もある。 設するため た木の選定: O張り上げて 負荷索で運 する。 ながら収納	の資材を 、滑車類 <i>0</i> する。 転する。	点検確記 )取付け	、主索、工	ンドレス索、	へ持っていく。 荷上げ索、引締め索、
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	林業架線作業語	構習を履修し	していること。						
評価方法	1. 出席 50%		2. 試験 0%	3. 成果 0%	!物	4. 取組 50%		5. その他( 0%	()
関連する資格	特になし								
注意事項	・実習では指え	<b>示するドレ</b> ス	スコードを遵守す	ること。					
学生への メッセージ	林業架線作	 業講習で学 <i>/</i>	んだ実習を基本編	 ≣とすれば、	 この実習	── 習は現場	—— 作業の応用	—— 揺編になります	

	—————————————————————————————————————	■				1	担当者(O	主担当)	
				〇吉里	予安里				
	素材から製	材品へ		t.	<b>彡本和也</b>				
授業方法	講義・実習	開講時期	2年後期	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	En 林業
背景と目的	の利潤が山側の 市場から仕ん た木製品とな	へ還元されて 入れた丸太 り、住宅なと	林業といえます	- <sub>。</sub> オし、目的 この仕事	に応じて が林産業	加工し、 です。	付加価値を	つけて、製材	丸太を売り上げ、そ 品や製材品を加工し 。
到達目標		算できる。 各寸法 (長さ	・や寸法)につい 才品の木取につい						
授業内容	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	りのでは、「ないでは、」」、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」」、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」」、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」」、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、」」、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、「ないでは、このでは、「ないでは、このでは、「ないでは、このでは、このでは、このでは、このでは、「ないでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、この	-。 ります。 そします。 いて学ぶ。 について知る。 こついて知る。 いて知る。 いて知る。 いないないないないないないないないないないないないない。		ふさわし	い靴、筆	記具		
テキスト・参考書	随時プリント	配布							
事前履修科目	特になし		ე ≣+# <b>-</b>	ე <del>-</del> 1° =	B #/m	Λ <del>Π-</del> ΔΠ	次赤	F 7.0 lb /	<u> </u>
評価方法	1. 出席 40%		<ol> <li>試験</li> <li>0%</li> </ol>	3. 成 0%	<b>尺</b> 初	4. 取組 60%		5. その他( 0%	)
関連する資格	特になし								
注意事項	・フォークリ <sup>・</sup> が望ましい。	 フト運転技能	 に講習、玉掛けお	—— 技能講習、	 小型移動	  式クレー	── ンの技能請	 情習を修了(受	講見込)であること
学生への メッセージ	製材を体験	して、丸太の	)性質や材質につ	いて学び	、林産業	の視線か	ら林業の理	解を深めます	0

	—————————————————————————————————————	■				į	担当者(〇	主担当)	
林業名	インタープリ	<b>リテーシ</b> :	ョン	〇新津	*裕				
授業方法	講義・実習	開講時期	2年後期	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	En 林業
背景と目的	いる人は多くな	ない。本実習		「林業」の <sup>·</sup>	世界の魅				いるのかは理解して 中学校へ出向き、学
到達目標	・屋外で大人	数に対しての	□学生に対して分 ○安全を確保する ・プログラムの中	ことが出	来るよう	になる。	0		
授業内容	を体験のの内容 1. 森林 プム ( ) の内容 2. チー 技ん ( ) がけい では、 3. 実施 プレイ ( ) では、 4. 当 構でで、 5. プレース ( ) では、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で	の さい こう	2 日は出前授業の 2 日は出前授業の 2 日は出前授業の 3 日は議し、体験 3 日のののののののののののののののののののののです。 3 日のでののののののののののののののののののののののののののののののののののの	(プログラングラング) (プログラングランケー) しん いい といい といい といい といい といい といい といい といい といい	んん ・	を 行う。 な 成 を 修 を ま る。	の小・中学 。		、どんなメッセージ明。
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし		ე ≣+F <b>&gt;</b>	ე -⊩=	1 #/m	Λ H= 4Π	次劫	F ZALL A	1
評価方法	1. 出席 30%		2. 試験 0%	3. 成集 30%	- 170	4. 取組 40%		5. その他() 0%	
関連する資格 注意事項	特になし								
学生への メッセージ	える上で大い	こ役立つ技術		相手の立場	場に立ち				して自分の想いを伝 たら心に残るのか?

	科	<b>=</b>				ŧ	担当者(〇	主担当)	
	11 <del>11/</del> 11 41	₩Ċ		〇伊佐	治彰祥				
	林業技能	使正		担	当教員				
授業方法	実習	開講時期	2 年後期	時間数	15	区分	必須	カテゴリ	En 林業
背景と目的	この科目は	、林業コース	ス学んだ各種技術	一・知識の習	]得状況	- を確認す	るために実	施する。	
到達目標	・森林調査や	施業に必要な	►的な作業技術を は知識・技術を身 上産ができる基本	トにつけてレ	いる。	身につけ	ている。		
授業内容	3. 選木技術 指定されたプ 4:伐採・造	木、木材、重 技術: 域の測量、 <sup>は</sup> : ロットにおい 材技術:	也図の読図、指定			の樹高・	立木密度蓄	積の算定	
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 0%		2. 試験 100%	3. 成果 0%	物	4. 取組 0%		5. その他 () 0%	
関連する資格	特になし								
注意事項	・指定された	実習服ドレス	スコードを遵守す	ること。					
学生への メッセージ	復習、反復:	 練習あるの <i>a</i>	<u></u>						
				F01F					

	科	目				;	担当者(〇	主担当)	
建築	施工実習(	(自力建設	?)	〇松井	‡匠				
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 林産業
背景と目的	非常に重要で この実習で み立てる「建	ある。 は、木造建築 て方」を行う	色の架構を建てる	ることを目	的とする	。加工さ	れた部材を		. 林産業の現場でも 指導のもと現場で組
到達目標	・「建て方」を	を滞りなく進	造建築の架構を めるために、必 とめ、当日までに	要な材料や	b道具を	隼備して♬			ション力を身につけ
授業内容	同となる。大 【実習の内容 1. 計画案の型 2. 材料手配、 3. クリエータ 4. 建て方の段 5. 上棟の段耳 【実務者によ	木を組み上に 素を組み上に 別理解:図の に 図の に	算の下での実習と 読み、計画を理 木・材料を手配 の打ち合わせ: した木材を組みしての流れを意識	だなる。 解し、工事 し、作業の 施工につい 上げる。全 した作業を	国内容を 対の いて、ク 体の流れ を心がける	把握する。 をする。 リエーター を読み、: ながら作う	-科学生と打 適切な道具	汀ち合わせを行	架構をつくる」と合う。 う。 なりにつける。
テキスト・参考書	随時資料配布								
事前履修科目	大工入門								
評価方法	1. 出席 50%		2. 試験 0%	3. 成身 0%	<b>!物</b> 	4. 取組 50%		5. その他() 0%	
関連する資格	一級建築士、	二級建築士、	木造建築士			-			
注意事項	・クリエータ	一科 1 年末造	スケジュールを研 性建築専攻の学生 が服装、運動靴が	と共同で	当日の準	 備をする	0		
学生への メッセージ			]建設」の材を、 高い仕事を達成す				習を通して	建て方の流れ。	と、大工技術を身に

	科 [					-	担当者(O	主担当)	
	メンテナン	ス実習		〇辻充	**************************************				
授業方法	講義・実習	開講時期	2年通年	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	En 林産業
背景と目的	それほど必要 木造建築は、 が可能となる。	としない日常 竣工後も適り 、アカデミー	的な手入れに分 別にメンテナンス	けられる。	。DIY やることで	古民家の流	舌用などで に風合い <i>の</i>	近年特に注目を )ある状態で維持	ものと、専門知識が :浴びている。また、 寺、使用されること うための知識、技術
到達目標	・建物の実態。 ・メンテナン ・メンテナン	ス計画の作成	<b>対ができる。</b>						
授業内容	<ol> <li>メンテナン</li> <li>対応策の様</li> <li>報告書の作</li> <li>メンテナン</li> <li>どの段取りも</li> <li>【実務者による</li> </ol>	・ス計画:不 ・計:メンテ ・成:調査診 ・スの実施: ・ス対象物件に 建物に合わせ る授業内容】	は、アカデミーを	の原因と x づき、 日常 を 取 り ま と ま た き キ も 自 カ	け策を検討 の手入れ める。こ か。、解体 建設など	討する。 卦 れと不具 台 プレゼン 道 な作業や修	長期・短期の 計画所の対応 資料にまとる 繕作業に加	応策を検討する め、施設管理者 1え、再度劣化*	o
テキスト・参考書	随時、プリン	卜配布							
事前履修科目	特になし 1. 出席		2. 試験	3. 成男	 具物	4. 取組		5. その他()	
評価方法 	60%		0%	0%		40%		0%	
関連する資格 注意事項	二級建築士、注		-ること。 -						
学生への メッセージ			-ナンスを主体に いります。建物を						な場所、納まりで、

	科	目					担当者(O	主担当)	
	\\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\	1 /#4.15 \$		〇吉野	安里				
木	造建築材料	·(乾燥)		杜	公井匠				
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	En 林産業
背景と目的	多く含む。そ	のため、乾燥	斗であり、立木り 梨して使う必要か 主宅用部材として	<b>゙</b> ある。					太の状態では水分を
到達目標	・含水率の計 ・含水率計の	算ができる。 取扱いについ	て知っている。 いて知っている。 いて知っている	) <sub>o</sub>					
授業内容	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・携体をえ清 】分含水計 燥材ン 燥 るいますが 東 本 中 智割係 習 業へししと整 率 使 習割係 習 業内 おおり ですが のの でる	た。 ろります。 そします。						
テキスト・参考書	寺澤真、木材	乾燥のすべて							
事前履修科目	特になし		0 =+FA	^ <del>-</del>	3 # <i>h</i>	A =- /-	次赤	F 7 A M. A	
評価方法	1. 出席 40%		<ol> <li>試験</li> <li>0%</li> </ol>	3. 成身 0%	₹初	4. 取組 60%		5. その他() 0%	
関連する資格	特になし								
注意事項	・フォークリ が望ましい。	フト運転技能	<b>ะ講習、玉掛け</b> 技	技能講習、	小型移動	式クレー	ンの技能請	間を修了(受記 	講見込)であること
学生への メッセージ			C使うための技術 はどうすればよい			材は、生	物由来のを	村料なので、品質	質にバラツキが大き

	科	目				扫	旦当者(O	主担当)	
	# 7+ <i>6</i> /5	/# <del>**</del> ***		〇吉野	· 安里				
不道	造建築材料	(集成材)		杜	公井匠				
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	En 林産業
背景と目的	この授業で	は、木材を住	はであり、立木り は宅用部材として けを工業材料とし	利用する	ための技	術を体験	を通じて学	ぶ。具体的に	は、資源的観点から
到達目標	・集成材に使・ラミナの曲	われる接着剤	を知っている。 別の概要について 対の求め方につい ロっている。						
授業内容	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	携体をえ清 】はのンのの 作の る で明こ、	- うります。 - とします。 - リます。						
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 40%		2. 試験 0%	3. 成身 0%	<b>!物</b> ————	4. 取組	姿勢 	5. その他() 0%	
関連する資格	特になし								
注意事項	・フォークリ が望ましい。	フト運転技能	<b>に講習、玉掛け</b> 技	支能講習、 	小型移動	式クレー:	_ ンの技能請 	- 情習を修了(受 	講見込)であること
学生への メッセージ			で使うための技術 はどうすればよい			材は、生	物由来の材	†料なので、品	質にバラツキが大き

	科	目				i	担当者(O	主担当)	
	<u> </u>			〇吉里	予安里				
木	造建築材料	(強度)		松	公井匠				
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	En 林産業
背景と目的	バラツキが大	きい。そのた	・   すであり、立木∜   さい、等級区分し   注宅用部材として	て使う。					こ、材質(強度)の
到達目標	・強度試験の ・等級区分に	方法について ついて知って	金度について知っている。 こいる。 こいる。 こついて知ってし						
授業内容	・ 作課終 業 かん で で で で で で で で で で で で で で で で で で	携体をえ清 】料要級度 実算ン度 る場 操説る掃 強因区と 習 グ 授 でししと整 と容 数 内ルますが頓 目がり を と容 のししいますがも と かんしょう する きんしょう する きんしょう しょうしん	た。 ちります。 をします。 見等級区分 1度						
テキスト・参考書	教員配布資料	ほか							
事前履修科目	特になし		0 =1.50	0 5-	B 4L	4 # ^=	`/r ±+	F = 0.00 °	
評価方法	1. 出席 40%		2. 試験 0%	3. 成 0%	<b>卡</b> 物	4. 取組 60%		5. その他() 0%	
関連する資格	特になし								
注意事項	・フォークリ が望ましい。	フト運転技能	と講習、玉掛け技	 技能講習、	小型移動	ゴクレー	ーーンの技能請	 け習を修了(受記	構見込)であること
学生への メッセージ			C使うための技術 はどうすればよし			材は、生	物由来の材	料なので、品質	質にバラツキが大き

	科	■				担	旦当者(O	主担当)	
		A		〇吉野	<del></del> 安里				
	木材利用総	合演習		小	原勝彦 <i>/</i>	′辻充孝/	松井匠		
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	120	区分	必須	カテゴリ	En 林産業
背景と目的	多くなります る、というよ この授業で	。例えば、お うなケースで は、身近な記	S客様にプランヤ です。 果題やトピックス	ら商品を勧め くをテーマと	かる、事	業企画を社 自が選び、	せ内で提案 1)調査	ぎする、ボラン・ でや実験を通じ <sup>*</sup>	を要求されることが ティア活動をPRす て、物事を論理的に 目的としています。
到達目標			ヽて、調査や実験 - ーション能力を			論理的に#	考える能力	を身に着ける。	
授業内容	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「森マのま 】 テテマの異題 険験会のテあ 会 る! 林に結か ーーかプ定や 計の:検ーり : 授につ果、 シシらレ、興 画実途討シ、 演 業かいを随 ョョプゼ調味 :施中:ョわ 習 内がて発時 シンレン査の 調(経プレか)の 別ネ、男男 の きょう・4 電() 過し打り の 別	対員が指導します。 一美ないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	います。 プレイン、 いっこ 変化 いみ 、 での正向 である いっこ での での でん いっこ かん いっこ かん いっこう かんしん いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう	- ション( すする。 を学って 随す発 ( は) は は ( ) に	能力が必要 選び、何る 受力容や 大容や 大容の 実習る か。	要か。 を明らかい あるる。 計での して そ	こしたいか、何? fえ、プレゼン <sup>-</sup>	を伝えたいかを整理
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 40%		2. 試験 0%	3. 成果 30%	物	4. 取組塗30%	<b>姿勢</b>	5. その他 () 0%	
関連する資格	特になし								
注意事項			ノトを使用するの )交流会や発表会		· · · —	本的な操作	* 作について	慣れておくこと	<b>:</b> •
学生への メッセージ									テーマは疑問点やも 査、実験をサポート

	科目					1	担当者(O	主担当)	
				〇嵯峨	 找創平				
	山村資源利用	用演習		親	<b>f津裕</b>				
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	60	区分	選択	カテゴリ	En 林産業
背景と目的		通して学ぶ	。実際に地域の	方々と作	業をする	中で、資	源管理の伝		森林資源の利用方法 資源利用に関わる
到達目標	・山村の生業と	森林資源の	法について体験 関わりについて 題を理解し、そ	現地の人	々から学	び理解す		つ。	
授業内容	物作りの知恵を 2. フィールド 薬草を中心とし 3. フィールド 戦する取り組み	- 泊に一ル 実学 実た 実の 実い、 授 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	をの都度事前に 一その都度事前後す を別により前後す を別に表して、 を別に表して、 を関いた。 を関いた。 を関いた。 を関いた。 を関いた。 では、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、の	指示 お示 ま ま ま ま ま ま ま な な な な な な な な の で り の で の の に の の の の の の の の の の の の の	。がある。 ちょう はい ちょう はい	管理(6 月 と観光化の 植生帯のは 0 月体 頃)。 す 2 月習を行	)動きを学え 竟界に位置 飛騨市の特 る 森林獣害の う	する伊吹山の植 存産品であった「 の実習と合同で、	業体験と複合的な作 生の特殊性を知る、 フラビ粉の復活に挑 美濃加茂市の森で
テキスト・参考書	フィールド実習	の都度プリ	ント資料を配布	iする					
事前履修科目	特になし			2 급 □	■ # <i>f</i> m	Λ Hπ 4□	次執	5 Z D H ()	
評価方法	1. 出席 70%		2. 試験 0%	3. 成界 0%	₹初	4. 取組 30%		5. その他() 0%	
関連する資格 注意事項	特になし・現地の食費、	宿泊費等で	実費負担が発生	:すること:	がある。				
学生への メッセージ	多様な森林資 チームワークが		利用方法につい	いて興味を	持って欲	<b>さい。フ</b>	ィールド実	習では自炊にも	も挑戦しますので、

	科目				担	旦当者(O	主担当)	
	\# = + ## - \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	1 41-	〇小原	ī勝彦				
木	造建築の展示の	支術	吉	野安里/	'辻充孝/	松井匠		
授業方法	講義・実習 開講師	<b>持期</b> 2年通年	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	En 林産業
背景と目的	カ、資料作成能力、 本科目ではプレゼン	プレゼンテーション シテーションのうち ける展示会に学生が	能力をはじる 特に展示に(	め、実践: 系る体系的	カが必要と 的な知識を	となる。 を身に着け	ることを目的と	対象者に応じた企画 とする。 ど教育機関や建築実
到達目標	・展示の基本的事項( ・企画力、資料作成能 ・プレゼンテーション ・実践力を高める。	<b>と力を高める。</b>	,					
授業内容	(1) 耐震博覧会 (2) 建築総合展 (3) ぎふ建築・5 (4) クラシド広 <sup>は</sup> (5) おおの木育	ドる内容に係る展示。 (株式会社ナイス) (株式会社中部経済 E活・芸術系学生・ 場(岐阜新聞) フェア(大野町・岐 ープンセミナー(森林	会の企画や計 新聞社) 生徒優秀作品 事新聞) 林文化アカー	軍営など? 品展(一∯ デミー・2	を実施しませる。	ます。 人建築学会 <b>写</b> 攻)	)	容に係る展示会の視
テキスト・参考書	随時プリント配布							
事前履修科目	特になし							
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成集 0%	!物	4. 取組多50%	姿勢	5. その他() 0%	
関連する資格	二級建築士、木造建築	<b>養士</b>						
注意事項	特になし							
学生への メッセージ	建築の展示を知ろ	ō.						

	—————————————————————————————————————	■				:	担当者(O	主担当)	
	木育総合	演習		〇松尹	<b>井勅尚</b>				
授業方法	実習	開講時期	2年通年	時間数	45	区分	選択	カテゴリ	En 林産業
背景と目的	イフスタイル	を提案する場 学的根拠を学	易合、適材適所は 学び取ることを目	は重要であ	る。こ <i>σ</i>	)授業は、	家具・カト	・ラリー等室内	また、木と暮らすラ 環境で木を使う場合 材の性質・物性をも
到達目標	・木材を取り	扱う上での物	中心とした木材   7理的化学的根拠  }けることができ	』を理解で					
授業内容	下まと	時では   一動12 の基 の分 … ぶ ス るでは   一動12 の本 化と カート 授 でいた です です 大 で が で が で が で が で が で が で か が で か で で か で か	本とした木材同だがいを活用し学る な燥について学る がを通して家具や	正する。 定を学ぶ。 、、 、 、 、	の適材適	頭所や加工			5.°°
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 50%		<ol> <li>試験</li> <li>50%</li> </ol>	3. 成 0%		4. 取組 0%		5. その他(特 0%	寺になし)
関連する資格注意事項	特になし・配布されたな	木材サンプル	レを毎回持参する	らこと。					
学生への メッセージ			カデミーを卒業 指しましょう。	していく旨	皆さんに	とって最ま	も基本的な <b>は</b>	 封種です。これ	をベースに卒業まで

	科 [	■				-	担当者(O	主担当)	
大	工入門(自	力建設)		〇松扌	护匠				
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	60	区分	必須	カテゴリ	En 林産業
背景と目的	非常に重要でる本授業は、	ある。 自力建設には		み」実習	である。	木造建築	の部材のつ	くられ方を体行	、林産業の現場でも 导するために、大工 所を学ぶ。
到達目標	・昔からの手 ・手工具、簡	刻みを基本 と 易な加工機器 つのものをつ	けることにより、 とした、木工事を 景を用いる技術を つくりあげるため	・体験する ・身につけ	。 る。				
授業内容	食事の準備なる 例年8月に10 基本的に全員? 【実習の内容 1. 大工技術の 2. 木材加工の 3. 「刻み」: 墨 【実務者による	- クリエータ グ、役割分別 日程度 (a) 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	マー科学生が同生 田をして 内のなが、 なおし、 はるが、、 なおり、 では、 なおり、 では、 ながらがら、 ながらがら、 ながらがら、 ながらがらがらがらがらがらがらがらがらがらがらがらがらがらがらがらがらがらがら	たしないました。 いま習を行 こついては ぎなど、ま 扱い、ホン 門技術者の	、県内の ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	)工務店で え。 大工道具 <i>0</i> エなど、ブ 下で刻む。	り扱いを学ん	5.°°	
テキスト・参考書	随時資料配布								
事前履修科目	特になし		0 =1=5	0 11-	D 44-	4	\hr #+	F = 0.01 0	
評価方法	1. 出席 50%		2. 試験 0%	3. 成身	<b>長物</b>	4. 取組 50%		5. その他() 0%	
関連する資格	一級建築士、	二級建築士、	木造建築士						
注意事項	・クリエータ-	一科1年末道	アジュールを確認 貴建築専攻の学生 る服装、運動靴か	と共同で	。 、刻み、	道具、宿	泊等の準備	iをする。	
学生への メッセージ									を加工します。実習 きる楽しい合宿の実

	科 目				;	担当者(O	主担当)	
木造建	築のプレゼンテ	ーション	O迁s	<b>充孝</b>				
授業方法	講義・実習開講	時期 2年前期	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	En 林産業
背景と目的	は、他分野でも活き 本授業では特に図 まとめる作業を行い	る技術である。 面や模型の表現方法	、プレゼン )なげる。。	シートヤ	ウスライド	の構成、図	図面に記すべき 作	が重要である。これ 情報などを理解して ことを目的とする。
到達目標	・建築模型の製作が ・プレゼンパネルの							
授業内容	<ol> <li>図面の表現力: E</li> <li>模型の表現力: E</li> <li>プレゼンシートの</li> <li>スライドの表現プクリエーター科1</li> <li>【実務者による授業設計実務経験のある</li> </ol>	建築模型の基礎知識 D表現力: プレゼン D: スライド (Powel 年の自力建設のプレ 内容】	、道具の扱い シートのま。 rpoint)の? vゼンテーシ	い、模型 とめ方、 まとめ方 ョンの手	製作 プレゼンシ 、発表の作	ンートのま	とめ方の製作	た能力向上
テキスト・参考書	随時、プリント配布							
事前履修科目	特になし	0 =450		<del>1</del> 1 #/~	A T-45	次赤	F 7 A M 1	
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成! 30%		4. 取組 20%		5. その他 () 0%	
関連する資格 注意事項	二級建築士、木造建・模型製作の回は、		<b>リッターマッ</b>	トを持参	<b>う</b> のこと。			
学生へのメッセージ	クリエーター科の ます。建築以外のプ	学生の手伝いもした レゼンにも参考にな		€のプレt	<b>ヹ</b> ンテーシ	ョンとはと	ごのようにする0	のかが実践でわかり

	科	目					担当者(〇章	主担当)	
4-11	L , =	/		〇吉野	野安里				
当村 	をつくる(	(目力建設)	)	ŧ	公井匠				
授業方法	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	必須	カテゴリ	En 林産業
背景と目的			、土台といった を切削、接着な					「板材料」か	ら成っています。こ
到達目標	<ul><li>・作業の安全</li><li>・切削加工の</li><li>・接着加工の</li></ul>	名称がわかる のための気配 注意点を知っ 手順を知って 使用する部材	りができる。 ている。 いる。						
授業内容	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	操説掃 】作工工 工曲つ分 の締 るのしし整 の業器 器の効つ 扱に 業 ののののあ率い いつ 内にい 容がららし 全造 し材な知 つて 】	について知る。 と日常点検を知 い使い方を知る の扱い方を知る 加工方法を知る る。 いて知る。	1 <b>&amp;</b> .					
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし								
評価方法	1. 出席 40%	2	2. 試験 0%	3. 成! 0%		4. 取組 60%		5. その他 () 0%	
関連する資格 注意事項	特になし								
学生への メッセージ	自力建設に ます。	使用する材料	を製造します。	知識と知	恵の両立	をはかり	、安全で、	正確で、効率の	のよい作業を目指し

	科目				扎	旦当者(O	主担当)	
			〇松井	勅尚				
	木材の適材適所		吉	野安里/	久津輪雅 ———	/辻充孝/	/前野健	
授業方法	講義・実習 開講時期	2年後期	時間数	15	区分	必須	カテゴリ	En 林産業
背景と目的	「木育」とは、すべて ローチするかが大きな課 の基礎を学ぶことを目的 を学びの場とし、木と人	題となっている。 とする。人と木ヤ	この授業で な な な な な の関 <sup>を</sup>	では、「暮 わりを主体	らしを舞 本的に考	台としたス えられる人	k育」のアプロ 、づくりの基礎	一チを実践するため
到達目標	・木工講座の企画と運営 ・講座スタッフとして講 ・子どもを対象とした場	座運営ができる。						
授業内容	【実習の進め方】 木工講座の企画と運営に実践現場にてより学びの共 【実習の内容】 1. 木工をベースとした木工をベースとした木工をベールド1(百年名3. フィールド2(会と連4. 振り返り報告レポート提出。 5. フィールド3(En1 実務者による民業は大工とを含む。	験を反復し講座選有をする。 に講座の企画の立案 に関) の教育活動) 携	で	その基本	なについて		∤事務所での経	験のある教員(辻充
テキスト・参考書	「心とからだを育むはじ	めての木育」(黎	明書房)					
事前履修科目		2. 試験	3. 成果		4. 取組		5. その他(特	寺になし)
評価方法	60%	0%	20%	- 1/3	20%	~ / /	報告書%	.,.=·o ∪/
関連する資格	特になし							
注意事項	・美濃市関市をフォール ・Cr 科実習「木工講座の ・土日開催の場合もある	実践1」とも連動	動する場合	もある。				
学生への メッセージ	将来、林産業が発展す	るために欠くこと	が出来ない	ハ木や森~	∖の無関≀	<b>心層へのア</b>	゚゚プローチです。	,

	科	<b>1</b>				į	旦当者(O.	主担当)	
	4.11.1			〇吉里					
	製材(自力	建設)		杜	公井匠				
授業方法	実習	開講時期	2年後期	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	En 林産業
背景と目的			れた丸太を市場へ ご林業といえます		終わりで	はありま	せん。丸太	は商品です。	丸太を売り上げ、そ
到達目標		算できる。 格寸法(長さ	らや寸法)につし 才品の木取につし						
授業内容	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	携体をえ清 】のの構材本本製に 燥画りの る、操説る掃 安安造品農農材つ 作を 計 授を明こ、 全全との林林寸い をた 算 業へししと整 に日規規規法て 知て を 内ルままが頓 つ常格格に知る、 学 容すすす。	た。 ちります。 をします。 いて学ぶ。 こででいて知る。 このいて知る。 このいて知る。 このいないないない。 ここないないないないない。 ここないないないない。 ここないないないないない。	きする。					
テキスト・参考書	特になし								
事前履修科目	特になし		0 =450	0 5-	9 4L	4 = 45	^/oz ≠n	F =	`
評価方法	1. 出席 40%		2. 試験 0%	3. 成 0%	<b>長物</b>	4. 取組		5. その他( 0%	)
関連する資格	特になし								
注意事項	特になし								
学生への メッセージ	製材を体験	して、丸太の	)性質や材質につ	いて学び	、林産業	の視線か	ら林業の理	解を深めます	

	科 目				:	担当者(O	主担当)	
	<b>4- 1:2 7:3 4:4</b>		〇小原	勝彦				
	先端建築学		吉	野安里。	/辻充孝/	/松井匠/	非常勤講師	
授業方法	講義・実習 開講時期	2年後期	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	En 林産業
背景と目的	先端的な建築物につい 本科目では先端的な建 都市や建築の歴史的・ る。計画・意匠設計・構 る。	築に関するさまさ 文化的背景をふる	ざまな知識 まえ、優れ	を身に着た建築物	けること Jの存在と	を目的とす 意義、計画	る。 『・設計の具体的	
到達目標	・先端的な建築について ・先端的研究動向につい ・先端的技術開発動向に	て知っている。	5.					
授業内容	1. 先端的な建築に関する(1)鉄筋引造:木造のの(2)鉄骨造:木造の他(4)その他(4)を動き、大変を動き、大変を動き、大変を動き、大変を動き、大変を動き、大変を動き、大端のは、大端のは、大端のは、大端のは、大端のは、大端のは、大端のは、大端のは	ト造: ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	フリート造( ハマディン・マディン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン	の先端建 **ぶ。 **ぶ。 で学ぶ。	笑につい	て学ぶ。	含む。	
テキスト・参考書	随時プリント配布							
事前履修科目	特になし				:			
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成果 0%	やも	4. 取組 50%		5. その他() 0%	
関連する資格	二級建築士、木造建築士							
注意事項	特になし							
学生への メッセージ	建築の最先端技術に触	れよう。						

	科 目	担当者(〇主担当)									
	-1-6-11-1		〇小原	〇小原勝彦							
	建築材料		非常勤講師								
授業方法	講義・実習 開講時期	2 年後期	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	En 林産業			
背景と目的	建築設計に関わることの一つに、材料を選択するということがある。 本科目では建築材料に係る体系的な知識を身に着けることが目的である。 建築で使用される各種材料の特性とその使用方法について学習する。まずはコンクリートや鋼材、木材などの主要材料の物理的性質や製造方法など基本的な特性を概説する。そして建築物の構成材料や仕上げ材料としての要求事項や一般的に使用される材料の実態を学び、使用箇所に適した安全で合理的な材料選択を理解する。										
到達目標	・建築材料の基本的概念を知っている。 ・建築材料の基本的な物理的性質を知っている。 ・建築材料の基本的な使用方法を知っている。										
授業内容	<ol> <li>ガイダンス、についている。</li> <li>オ村: 木材: セメンタリー金属 オンクリー金属 非鉄金石に タイル につり は 大力 に 大力</li></ol>	学ぶ。 こついて学ぶ。 フリートについて いて学ぶ。 属材について学ぶ。 さぶ。 いて学ぶ。 ジぶ。 ファルトについて 学ぶ。 学ぶ。	<b>学ぶ。</b> 。	学ぶ。 C							
テキスト・参考書	随時プリント配布										
事前履修科目	特になし										
評価方法	1. 出席 50%	2. 試験 0%	3. 成 0%	<b>果物</b>	4. 取組 50%		5. その他 () 0%				
関連する資格	二級建築士、木造建築士										
注意事項	特になし										
学生への メッセージ	建築の材料を知ろう。										

	担当者(〇主担当)											
	木材・木工	の基礎		○前野健								
授業方法	実習	開講時期	2年後期	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	En 林産業			
背景と目的	それらの性質 がる。 この実習で	木材は環境の変化や水分の吸放出によって、反ったり、ねじれたりする特徴を持っている。木で製品を作る場合、それらの性質を理解していないと、使っているうちに壊れてしまったり、機能的な不具合が出るなどの問題につながる。 この実習では、伝統的な木組みの技術を使って課題物の製作を行い、基本的な材の使い方や、木の動きに対応した構造について学ぶ。製作には手工具と木工機械を使用する。										
到達目標	・木材の性質(変形)を知る。 ・木材の性質を踏まえた木の使い方(用材)を知る。 ・手工具(ノコギリ、ノミ、カンナ)と木工機械の使い方を知る。											
授業内容	学内の (本)	る 木材の性質 を 大材の回り た た に 影響 製 具作 ノカ 装 一 は 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	木の性質と木の 調査し、破損の 工機械を使い、 体験)	使い方を学 実例を知る 作品を製作	響してい か。木 う。	材の適材道		で知る。				
テキスト・参考書	教員作成資料	を配布										
事前履修科目	特になし											
評価方法	1. 出席 50%		2. 試験 0%	3. 成身 25%		4. 取組 25%		5. その他 () 0%				
関連する資格	特になし											
注意事項	・実習には作 ・半ズボン、 ・袖や裾のし	スカート、サ		こと。								
学生への メッセージ			ことができるモノ います。基本的						悪い物ができたり、 こう。			

	科 目		担当者(〇主担当)								
3	<b>建築計画・環境工学</b>		〇辻充孝								
授業方法	講義・実習 開講時期	2年後期	時間数	30	区分	選択	カテゴリ	En 林産業			
背景と目的	造住宅の中で特に重要にな 定め定量的に計算できる。 また建築計画では、与約	建築環境工学は、熱、光、音、空気の4つの要素の制御を行う学問で、人の健康を担う基本的な性能である。木造住宅の中で特に重要になる熱を中心に、光や音、空気も意識しながら、温熱性能の重要性を認識し、自ら目標を定め定量的に計算できるようになることが目的である。また建築計画では、与条件のもと、各々の最適解答を探求するプロセスであることをふまえ、実践的な課題演習によって、計画立案と実施設計にトライする。									
到達目標	<ul><li>・与条件整理ができる。</li><li>・環境性能(断熱、日射熱取得、防露)の計算ができる。</li><li>・一次エネルギー消費量の計算ができる。</li></ul>										
授業内容	建築環境工学概論:建築環境工学の基本知識、温熱環境の重要性     断熱性能の計算:建物断熱性能の計算、素材の物性値     日射制御性能の計算:日射取得に関する開口部性能、夏期、冬期の日射取得性能の計算     防露性能の計算:相対湿度と絶対湿度、透湿抵抗の計算     建築の歴史から考える計画:各時代の建築様式、建築様式から地域特性を考える     クライアントからの要望調査:調書の作成、インタビュー     建築計画の立案:建築計画の検討、作成     設備と自然エネルギー利用:昼光利用、自然風利用、熱利用の検討     調査・実習:地域とユーザー     計画演習:図面と模型の製作     ブレゼンテーション:プレゼンテーション     【実務者による授業内容】     設計実務経験のある教員(辻充孝)による実習を含む										
テキスト・参考書	随時、プリント配布										
事前履修科目	特になし   1. 出席	2. 試験	3. 成身	 果物	4. 取組		5. その他()				
評価方法	50%	0%	30%	ı	20%	)	0%				
関連する資格	二級建築士、木造建築士   特になし										
学生への メッセージ	建築の基本的な環境性能ときの工夫が考えられます		日射制御	、防露を	学んで、	家の中の暖	かさ、寒さを久	少しでも減らしたい			

	担当者(〇主担当)											
	建築設計	製図		〇松井匠								
授業方法	講義・実習	開講時期	2年後期	時間数	45	区分	選択	カテゴリ	En 林産業			
背景と目的	建築士資格の 基本的な図	現在の設計実務は CAD で行われるが、わかりやすく伝えるための作図は、手描きの訓練が最も近道である。また、 建築士資格の試験は手描きで行われる。 基本的な図面の読み方から、読みやすい図面の描き方まで身に付け、簡単な製図を通して、設計の意図を感じと ると同時に、意図を伝える能力を養う。										
到達目標	・木造建築の図面を読めるようになる。 ・木造建築の図面を手描きで製図できるようになる。 ・わかりやすく、伝わりやすい図面の描き方を理解する。 ・建築士試験の製図試験のために、手描き図面の作成に慣れる。											
授業内容	その都では、描容は、描容は、描容は、 本では、 本では、 本では、 本では、 本では、 本では、 本では、 本で	、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、		いがら進め し ぶ け 実際 きちんき まる ままる ままる ままる ままる ままる かままる かままる かままる	る。 「 「 「 「 「 「 「 に と に と に と に と に う こ に う こ 。 こ ら う こ 。 と う 。 ら う 。 。 を う 。 。 を う 。 。 を う 。 。 を う 。 。 を う 。 。 を う 。 。 を う 。 。 を う 。 。 を う 。 。 を う 。 を う 。 を う 。 こ 。 と 。 こ こ 。 と う こ 。 と う こ 。 と う こ う こ う こ う こ う こ う こ う こ う こ う こ う	面の読みプ やすい線 を 学ぶ。	うを学ぶ。	を学ぶ。				
テキスト・参考書	特になし											
事前履修科目	特になし											
評価方法	1. 出席 50%		2. 試験 0%	3. 成身 50%		4. 取組 0%		5. その他 () 0%				
関連する資格	一級建築士、	二級建築士、	木造建築士									
注意事項		持っている。				まうが良い	。持ってい	かない人は、製匠	図用のシャープペン			
学生への メッセージ	は、意外にも	CAD の図面		を伝えるこ	とができ	きるのです			です。手描きの図面 を描きながら学んで			

	担当者(〇主担当)										
	〇松井匠										
授業方法	講義	開講時期	2年後期	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	En 林産業		
背景と目的	木造建築の設計は、様々な法規制によって制限される。この制限の中で自分の考えを自在に構築し、自由な設計を実現するために、基礎的な法規を学ぶことを目的とする。 本講義では、建築基準法の暗記ではなく、ひとつひとつの法令が「何のために定められているのか?」を示すことで、各自が法に向き合う姿勢をつくることを意識して進める。主に木造建築に関する計画・設計・工事監理等の法規の知識、法規的取り扱いの基礎を学習するが、集団規定・単体規定を中心に、すぐに実務に役立ち、確認申請に対応できる法解釈にも触れて学ぶ、実践的な講義である。										
到達目標	<ul><li>・法律用語に慣れ、法文を理解できるようになる。</li><li>・建築関係法例集を適切に参照して、法規的課題を解決できる能力を身につける。</li><li>・木造建築の設計に関わる諸条件の整理ができるようになる。</li><li>・建築士試験で法例集を扱えるようになる。</li></ul>										
授業内容	建築基準法法、方を学生、用語、集域制度、 は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	登学が、 演話で限 習種、全 族 業 準 本 での る で で で で で で で で で で で で で で で で で	容積率、建ペい率 責の算出方法を学 て、斜線制限の計 規定を学ぶ。 階段の演習から学 から学ぶ。 すぐに実務に使	はないでする。 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 ないでは、 はいできる。	算定方法 ら学ぶ。 定、排煙	!規定) のコツを <sup>5</sup>		る範囲ほか)			
テキスト・参考書	特になし										
事前履修科目	特になし										
評価方法	1. 出席 50%		2. 試験 0%	3. 成身 20%		4. 取組30%		5. その他 () 0%	)		
関連する資格	一級建築士、二	級建築士、	木造建築士								
注意事項	随時、プリント 建築士資格を取		る。 学生は「建築関係	—— 〔法例集〕	(井上書)	— <b>—</b> 完)					
学生への メッセージ		)意図を考え	えながら、できる						解とされる建築基準 にして"実務に即使		

	担当者(〇主担当)											
	構造力	学		○小原勝彦								
授業方法	講義・実習	開講時期	2年後期	時間数	45	区分	選択	カテゴリ	En 林産業			
背景と目的	本科目では 建築構造の つである単純	建築構造を学ぶために、その基礎となる静定構造力学を理解する必要がある。 本科目では静定構造力学に係る体系的な知識を身に着けることを目的とする。 建築構造の基礎となる静定構造力学について概説を行います。構造分野の初歩として、もっとも単純な構造の一 つである単純梁、片持梁や静定トラス等について、作用する荷重やその反力及び各部に生じる応力度や変形等の基 礎諸事項を学ぶ。										
到達目標	・構造力学の静定構造について知っている。 ・木造建築の壁量計算について知っている。 ・応力や変形等の基本事項を知っている。											
授業内容	合 2. 3. 4. 5. 6. 7. つ 8. 2 年	合 定の ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	不静定: 大きまた : 安定の反 たま : 安定の反応 たま : 一	不 3 ( 1 ( 1 ) ) ・ せ 断 リ ・ 量 足安 ( 1 )))と 図ん 法 ク ・ 、 率 に))))と 心断 、 ス ・壁 計 計 動反軸応す 、弾 ト 有 量 算	争りカ方カみ 断性 / 限 充 、とらの向の度 面係 ッ 妻 足 偏不条定、定所 ク 、 シ き : 率	静伴にせになってなる、大なななくない断いと、メに、なる、大ななないできまれば、大きないできます。 かんしゅう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう かんしょう はんしょう はんしょく はんしょう はんしょく はんしん はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんし	いている。 学、学・ザートい がいがい。 がいがい。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	メントについる フックの法則、「 る数、断面極 2 2 て学ぶ。	デル化、支持点と接て学ぶ。 で力度とひすみ度に 欠モーメント、断面 在壁量、壁量充足率			
テキスト・参考書	随時プリント	配布										
事前履修科目	特になし											
評価方法	1. 出席 50%		2. 試験 0%	3. 成身 0%	<b>果物</b>	4. 取組 50%		5. その他 () 0%				
関連する資格	二級建築士、	木造建築士										
注意事項	特になし											
学生への メッセージ	構造力学の	基本、木造頭	⋭築の構造設計 <i>σ</i>	)基本を知	ろ <b>う</b> 。							

	担当者(〇主担当)											
	木工・建築	☆ル⊷		〇吉野安里								
	小工· 建架 	<b>メル</b> 画		非常勤講師								
授業方法	講義・実習	開講時期	2年後期	時間数	15	区分	選択	カテゴリ	En 林産業			
背景と目的	ため、木材の	森と人との共生を謳うにあたり、川下側である木材の利活用について知識や体験を得ることは重要である。このため、木材の主要な利活用手段である建築や木工について、日本での歴史や将来について学ぶとともに、伝統的な加工技術や最先端の加工技術を体験することで、木材のより深い利活用方法を学ぶきっかけとする。										
到達目標	・技能五輪や技能グランプリ大会の概要について理解することができる。 ・いくつかの加工技術を習得することができる。 ・日本の建築の歴史や伝統建築物の再生、木材のあらたな活用方法等について理解することができる。											
授業内容	・技能五輪 ・課題本体 ・建築文化 ・建設企業 ぶ。 【実務者によ	の受賞技術者 を用いて、 について学 関係者から、 る授業内容】	ぶ(2 回) 建築の歴史とま	☆及び技能 きグランプ ミ来、伝統	リのポイ	ントを学	ぶとともに	、木材加工の	ついて学ぶ。 実習体験を受ける。 建築文化について学			
テキスト・参考書	特になし											
事前履修科目	特になし											
評価方法	1. 出席 80%		2. 試験 0%	3. 成男 20%		4. 取組 0%	姿勢	5. その他 ( 0%	)			
関連する資格	特になし											
注意事項	特になし											
学生への メッセージ			プリの受賞者から 貴重な建築の歴史				_		・実習です。また、業です。			